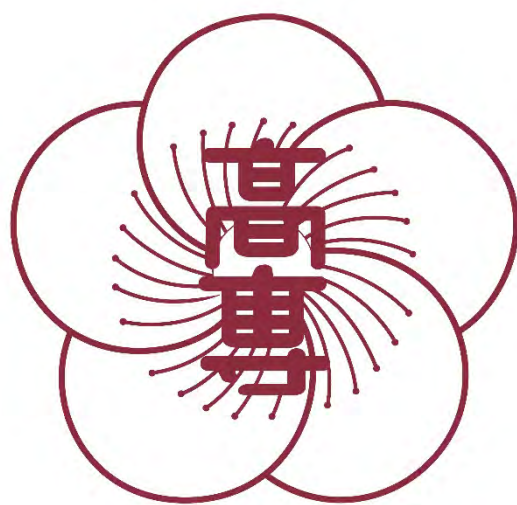


# 令和6年度 年次報告書

—委員会等による活動報告及び点検評価結果—



茨城工業高等専門学校

## 目 次

1. 学生の受入（入学試験委員会）	1
2. 教育内容等（教務委員会）	9
3. 教育内容等（専攻科委員会）	18
4. 学生支援（学生委員会）	21
5. 寮生支援（寮務委員会）	27
6. 広報活動（広報戦略室及び広報委員会）	32
7. 学生健康支援（学生健康センター）	36
8. 図書館運営（学術総合情報センター）	39
9. 情報化推進（学術総合情報センター・情報セキュリティ管理委員会）	47
10. 国際化推進（グローバル教育センター）	49
11. ダイバーシティ推進（ダイバーシティ推進センター）	55
12. 地域連携・研究活動 （副校長（地域連携）、地域連携センター）	58
13. 教育組織（教員任用審査会）	63
14. 教育支援組織（事務部）	65
15. 教育支援組織（技術教育支援センター）	70
16. 予算及び施設・整備（総務委員会）	78
17. 安全衛生管理（安全衛生委員会）	82
18. 自己点検・評価（自己点検・評価委員会）	85

## 1. 学生の受入（入学試験委員会）

### （1）取組実績

#### ①入試広報活動

##### 1) 地区別学校説明会

7月13日から8月17日の間に県内6会場（本校、つくば、日立、笠間、牛久、土浦）で学校説明会を実施した。学校概要、在校生及び卒業生の学校紹介、入試制度（WEB出願制度含む）等について説明を行った。中学生（522名）及び保護者等が参加した。

##### 2) 中学校進路指導担当教員対象学校説明会

学校概要、募集要項及び具体的なWEB出願手続方法等について説明を行った。

回	日 時	場 所	参加校	合計
第1回	10月10日（木）14:00～16:00	本校視聴覚教室	36校	55校
第2回	11月12日（火）14:00～16:00	本校視聴覚教室	19校	

##### 3) 中学校主催学校説明会

中学校からの依頼により教員や学生を派遣し本校の説明や模擬授業を行った。令和6年度は25校で実施した。

##### 4) KOSEN FES 2024

国公立高専合同説明会 2024 東京会場に出展し、本校入学希望者向けにアピールを行った。会場では、本校からは2つのブース出展と、オフライン・オンライン個別相談会、さらに高専機構本部から招待を受けた代表学生による高専PRのためのプレゼンテーションを実施し、小中学生とその保護者等へ本校の特色と特長を紹介した。

##### 5) 茨城県進学フェア 2024

NPO法人主催の茨城県進学フェア 2024（筑西会場、日立会場、神栖会場、水戸会場、つくば会場）に参加し、本校の説明を行った。

##### 6) 一日体験入学

9月28日（土）に1日体験入学を実施した。中学生対象に各系の模擬授業及び模擬実験を行ったほか、入試制度説明、キャンパス案内等を行った。事前予約制とし、379名の中学生が参加した。

##### 7) 個別学校見学

中学生及び保護者等からの個別依頼に対応し、施設見学や受験案内等を行った。

##### 8) 入試広報資料の作成

入試広報資料を作成し、中学校や学習塾等へ配布した。

種 類	名 称	部数	備考
リーフレット	学校説明会リーフレット	31,000枚	
パンフレット	学校説明会資料	5,000部	
パンフレット	キャンパスガイド2025	7,500部	

## 9) 募集要項の作成

入学者募集要項は、Web 出願サイトからの出願に伴い、出願書類の様式が無い簡易版を作成し県内中学校及び近隣の他県にある過去に本校へ出願した生徒がいた中学校に配布した。なお、令和6年度から専攻科もWeb出願に変更としたため、本科と同様の対応をおこなった。

- ・令和7年度本科入学者募集要項 … 2,500部印刷、県内外中学校、学習塾等へ送付
- ・令和7年度第3学年編入学者（外国人対象）募集要項 … 高専機構本部が作成
- ・令和7年度第4学年編入学者募集要項 … 300部印刷、茨城県内高等学校へ送付
- ・令和7年度専攻科入学者募集要項 … 300部印刷

## ②入学試験委員会の開催

### 1) 第1回

開催日：令和6年5月9日（木）

議 題

#### 【審議事項（専攻科合格者判定）】

1. 令和7年度専攻科入学者推薦選抜試験合格者判定について
2. 令和7年度専攻科入学者タイ政府奨学金留学生特別推薦選抜合格者判定について

#### 【審議事項】

3. 令和7年度第4学年編入学試験業務日程（案）について
4. 令和7年度第4学年編入学生募集要項（案）について
5. 令和7年度入学者選抜試験日程（案）について

#### 【報告事項】

6. 令和6年度本科入学試験状況及び新入生アンケート結果について
7. その他

### 2) 第2回

開催日：令和6年6月11日（火）

#### 【審議事項（専攻科学力合格者判定）】

1. 令和7年度専攻科入学者学力選抜試験合格者判定について

#### 【報告事項】

2. 本校で実施する学校説明会（案）について
3. その他

## ※臨時入学試験委員会（メール審議）

期間：令和6年6月21日（金）～令和6年6月25日（火）

議 題

#### 【審議事項】

1. 令和7年度第4学年編入学試験業務日程（案）の変更について

3)第3回

開催日：令和6年7月9日（火）

議 題

【審議事項（専攻科学力（追試験）合格者判定）】

1. 令和7年度専攻科入学者学力選抜試験（追試験）合格者判定について

【報告事項】

2. その他

4)第4回

開催日：令和6年9月11日（水）

議 題

【審議事項】

1. 令和7年度第4学年編入学生選抜試験合格者判定について

2. 令和7年度学生募集要項（案）

【報告事項】

3. その他

5)第5回

開催日：令和6年10月23日（水）

議 題

【審議事項】

1. 専攻科学生選抜基準（案）の改正について

2. 専攻科入試及び第4学年編入学入試にかかる学生募集要項の冊子（紙媒体）の廃止（案）について

3. 本科入学試験問題作成・編集・点検要領（案）

専攻科入試問題作成・編集・点検要領（案）

4. 令和7年度入学者推薦選抜試験業務日程表（案）について

5. 令和7年度入学者推薦選抜試験業務担当者選出人員（案）について

6. 令和7年度入学者選抜学力検査・帰国子女・外国人特別選抜試験業務日程表（案）について

【報告事項】

7. その他

6)第6回

開催日：令和7年1月6日（月）

議 題

【審議事項】

- 1 令和8年度専攻科入学者選抜試験業務日程表（案）について
- 2 令和8年度専攻科学生募集要項について
- 3 令和7年度入学者推薦選抜試験の実施について
- 4 令和7年度第3学年編入学試験（外国人対象）合否判定基準について

【報告事項】

- 5 令和7年度第3学年編入学留学生受入可能数
- 6 その他

7)第7回

開催日：令和7年1月14日（火）

議 題

- 1) 令和7年度入学者推薦選抜試験合格者判定について
- 2) その他

8)第8回

開催日：令和7年1月23日（木）

議 題

- 1) 令和8年度入学者選抜試験日程（案）について
- 2) 令和7年度第3学年編入学試験〔外国人対象〕に係る合否判定について
- 3) その他

9)第9回

開催日：令和7年2月3日（月）

議 題

- 1) 令和7年度入学者学力選抜試験の実施について
- 2) その他

10)第10回

開催日：令和7年2月12日（水）

議 題

- 1) 令和7年度入学者選抜学力検査他合格者判定について
- 2) 令和7年度入学者学力選抜試験（追試験）の実施について
- 3) その他

11) 第 11 回

開催日：令和 7 年 2 月 25 日（火）

議 題

- 1) 令和 7 年度入学者選抜学力検査（追試験）合格者判定について
- 2) その他

12) 第 12 回

開催日：令和 7 年 3 月 5 日（水）

議 題

- 1) 令和 7 年度入学者選抜学力検査合格者判定について
- 2) その他

**③入学試験の実施**

1) WEB 出願の導入

令和 7 年度入学者選抜試験も、WEB 出願（miraicompass）により出願を受付した。本年度より専攻科の入学者選抜試験も WEB 出願（miraicompass）を活用した。WEB 出願の導入により、従来の紙の入学願書からオンライン上での入力へ変更され、出願者の情報をデータで入手することが出来るようになった。また、受験料の支払いもオンラインで済ませることが可能となり、出願者が直接銀行に行く必要が無くなった。

2) 試験実施のガイドライン（高専機構学務課）に基づき試験を実施した。

◇推薦選抜（会場：本校）

- ・WEB エントリー：令和 6 年 12 月 5 日（木）～令和 6 年 12 月 23 日（月）
- ・出願書類受付：令和 6 年 12 月 19 日（木）～12 月 23 日（月）
- ・本試験日：令和 7 年 1 月 9 日（木）
- ・合格内定者発表：令和 7 年 1 月 15 日（水）

◇推薦選抜【追試験】（会場：本校）

- ・実施なし

◇学力検査選抜（会場：本校・つくば国際会議場）

- ・WEB エントリー：令和 7 年 1 月 7 日（火）～1 月 24 日（金）
- ・出願書類受付：令和 7 年 1 月 21 日（火）～1 月 24 日（金）
- ・本試験日：令和 7 年 2 月 9 日（日）
- ・合格者発表：令和 7 年 2 月 14 日（金）

※帰国子女特別選抜試験（会場：本校）

- ・WEB エントリー：令和 7 年 1 月 7 日（火）～1 月 24 日（金）
- ・出願書類受付：令和 7 年 1 月 21 日（火）～1 月 24 日（金）

- ・本試験日：令和7年2月9日（日）
- ・合格者発表：令和7年2月14日（金）

※外国人特別選抜試験は無し

◇学力検査選抜【追試験】

- ・追試験日：令和7年2月23日（日）
- ・合格発表：令和7年2月26日（水）

○令和7年度本科入学者試験状況

学科	入試全体					推薦選抜			学力選抜		
	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	出願倍率	出願者数	受験者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数
国際創造工学	200	302 (69)	300 (68)	206 (44)	1.5	106 (36)	106 (36)	67 (21)	232 (47)	227 (43)	137 (23)

※下段（ ）は女子で内数

学科	帰国子女特別選抜			外国人特別選抜			入学者数	タイ留学生入学者数	入学者数合計
	出願者数	受験者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数			
国際創造工学	2 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	200 (41)	0 (0)	200 (41)

※下段（ ）は女子で内数

◇入学手続会：令和7年2月27日（木）に開催した。大教室で前半の部・後半の部と二部制で全体説明会を実施した。

3) 令和7年度第3学年編入学試験（外国人対象）

国立高専機構本部統括による外国人（私費留学生）対象の第3学年編入学試験

\*本校第3学年編入学試験（外国人対象）合否判定基準に基づき合否を判定する。本年度は3名の出願があり、1名を合格とした。なお、当該合格者は他高専に入学することとなった。

4) 令和7年度第4学年編入学試験

- ・WEBエントリー：令和6年7月17日（水）～8月1日（木）
- ・出願書類受付：令和6年7月30日（火）～8月1日（木）
- ・編入学試験：令和6年9月9日（月）
- ・合格者発表：令和6年9月13日（金）
- ・編入者説明会：令和6年12月5日（木）
- ・入学手続説明会：令和7年3月3日（月）

○ 令和7年度第4学年編入学者試験状況

募集主専攻系	出願者数 (高校：科)	受験者数	合格者数	入学者数
機械・制御系	1 (機械 1)	1	0	0
電気・電子系	0	0	0	0
情報系	5 (機械 1、情報 4)	5	2	2
化学・生物・環境系	0	0	0	0
合計	6	6	2	2

5) 令和7年度専攻科入学者選抜試験

推薦選抜

- ・WEBエントリー：令和6年4月9日（火）～4月24日（水）
- ・出願書類受付：令和6年4月23日（火）～4月24日（水）
- ・面接試験：受験者が全員本校学生のため面接はなし。
- ・合格者発表：令和6年5月14日（火）

学力選抜

- ・WEBエントリー：令和6年5月13日（月）～5月29日（水）
- ・出願書類受付：令和6年5月27日（月）～5月29日（水）
- ・学力検査：令和6年6月8日（土）

※社会人特別選抜は、出願者なし

- ・合格者発表：令和6年6月14日（金）

学力選抜（追試験）

- ・学力検査：令和6年7月8日（月）
- ・合格者発表：令和6年7月10日（水）

○ 令和7年度専攻科入学者選抜試験状況

産業技術システムデザイン工学専攻（募集定員：20人）

専攻科コース	推薦選抜		学力選抜			タイ政府奨学金留学生特別推薦選抜	入学者数
	出願者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数		
機械工学	4	4	7	6	3	0	5
電気電子工学	3	3	11	11	7	1	5
情報工学	6	6	11	10	7	0	8
応用化学	6	6	16	16	9	0	8
合計	19	19	45	43	26	1	26

他高専・社会人の出願者なし

④令和7年度外国人留学生の受入

学年	学科（系）	性	国籍	身分	備考
3年	機械・制御系（機械コース）	男	マレーシア	政府派遣	
	機械・制御系（機械コース）	男	モザンビーク	国費	

	機械・制御系（制御コース）	男	タイ	政府派遣	
	電気・電子系	男	ラオス	国費	
	情報系	男	スリランカ	国費	
	化学・生物・環境系	男	ラオス	国費	

## （２）自己評価（改善含む）及び課題

### ①入試広報活動

KOSEN FES や茨城県進学フェアなどの進学イベントにも積極的に参加した。地区別学校説明会では、本校学生及び本校卒業生による学校説明を主とし、より受験生に近い視点で学生生活や受験の取組等を伝えることを行った。また、令和6年度の本校会場での説明会では各系の紹介、学食、学寮見学などの取組をおこなった。

### ②本科入学試験

令和3年度以来の帰国子女特別選抜の出願があった（2名）。

### ③本科入学試験（つくば会場）

つくばエクスプレス沿いの中学生も受験しやすいように県南の入試会場として、つくば国際会議場でも入試を実施した。県南地区の受験者は以下のとおりであった

< 県南地区受験者 >

R7年度入試	R6年度入試	R5年度入試	R4年度入試	R3年度入試
58名	61名	84名	37名	49名

### ④専攻科入学試験

令和7年度入学者選抜試験から、WEB出願（miraicompass）を導入した。

### ⑤過去5年間の学力検査による選抜合格者の5教科合計（600点満点）の最高点、最低点及び平均点は次のとおりである。

	最高点	最低点	平均点	志願倍率
令和3年度	537	352	426	1.5
令和4年度	556	362	434	1.4
令和5年度	527	382	440	1.6
令和6年度	541	386	449	1.6
令和7年度	553	392	460	1.5

## （３）今後の展開

- ① 昨年度の志願倍率 1.6 倍を下回る結果となったが、志願倍率減少の要因を分析し、広報活動を積極的に行い、志願倍率の増加を目指して戦略的に取り組みを行っていく必要がある。

## 2. 教育内容等（教務委員会）令和6年度

令和6年度教務関係日程

4月4日（木）：入学式

4月5日（金）：始業式

5月29日（水）～6月4日（火）：前期中間試験

7月24日（水）～7月31日（水）：前期期末試験

8月7日（水）：前期授業終了

8月19日（月）～8月23日（金）：夏季集中講義を対面形式で実施

9月19日（木）：後期授業開始

11月7日（木）～11月13日（水）：後期中間試験

1月22日（水）～1月29日（水）：後期期末試験

3月3日（月）：登校日

3月14日（金）：終業式

3月15日（土）：卒業式・修了式

### （1）取組実績

学生の教科履修及び学籍等については、教務委員会において立案の上、次の活動を行った。

#### ①キャリア教育

1年生の国際創造工学基礎において、キャリアデザイン基礎を5回に渡り行い、自己理解、メールマナー、企業の方による企業講話、進学、留学や海外就職、及び校長によるキャリア教育を実施した。

#### ②ボランティア活動の支援

無報酬のボランティア活動で総活動時間が30時間を超えるものは、学生からの申請を受けて「社会貢献」として単位化している。令和6年度の「社会貢献」の単位認定者は16名であった。うち13名は、本科地域相互誘起型課題解決実践教育プログラム（MIPPEプラス）の参加者である。

#### ③モデルコアカリキュラムによる教育の質保証の取組推進

CBTを12月18日（水）に本科1年生（化学、数学）、12月11日（水）に本科2年生（数学）、12月25日（水）に本科3年生（物理、数学）を対象に実施した。また、1月21日（火）に情報系3年生（プログラミング）、2月5日（水）情報系4年生（ソフトウェア）、12月20日（金）に情報系5年生（その他の学習内容）を対象に実施した。

#### ④インターンシップの単位認定

令和6年度のインターンシップの単位認定者は全体で114名（本科90名、専攻科24名）であった。うち本科1名、専攻科4名はMIPPEプラスの参加者である。

#### ⑤セキュリティを含む情報教育

「情報リテラシー」の授業において、セキュリティを含む情報教育を行った。

#### ⑥Webによる履修登録

令和6年度も選択科目の履修申請をGoogle FormsによるWeb登録方式にて行い、登録作業の効率化を図った。

#### ⑦主専攻・副専攻の決定

国際創造工学科7期生（令和5年度入学）の主専攻・副専攻配属を本人の希望と成績順位により決定し、以下のとおり配属された。希望した系への配属割合は、第1希望162名（83.1%）、第2希望26名（13.3%）、第3希望6名（3.1%）、第4希望1名（0.5%）であった。

＜主専攻＞	機械・制御系	78名
	電気・電子系	39名
	情報系	39名
	化学・生物・環境系	39名
＜副専攻＞	機械・制御系	33名
	電気・電子系	45名
	情報系	44名
	化学・生物・環境系	45名
	グローバル系	28名

#### ⑧規則等に関すること

研究生、聴講生及び科目等履修生の提出書類の削減、第4学年の仮進級制度制定に伴い、以下の規則の改正及び申合せの改正を行った。

- ・茨城工業高等専門学校研究生規則の一部改正
- ・茨城工業高等専門学校聴講生規則の一部改正
- ・茨城工業高等専門学校科目等履修生規則の一部改正
- ・茨城工業高等専門学校学業成績の評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程の一部改正
- ・教務関係申し合わせの改正（〔6〕再試験の運用に関する申合せ、〔20〕卒業及び進級認定の運用に関する申合せ、〔21〕本科退学者の修了認定学年に関する申合せ、〔35〕仮進級に関する申合せ）

⑨令和6年度教務委員会

令和6年度は以下のとおり委員会を9回開催し、メール審議を16回行った。

回数	開催日	議題
メール 第1回	令和6年4月2日	1.他大学等履修申請について 本科生2名の、長岡技科大（第1学期）1科目、 茨城大学（前期）1科目の履修申請について
第1回	令和6年5月13日	1.知能・技能審査による単位認定について（資料1） 2.グローバル研修の単位認定について（資料2） 3.5M2学生へのオンデマンド授業について 4.R7年度時間割について（90分化） 5.現行カリキュラムの微修正について 6.前期授業参観（6月16日（月）～21日（金））について 7.学習サポートプログラムへの協力依頼について 8.分野横断的能力の自己点検
メール 第2回	令和6年5月22日	1.留学期間変更について 令和5年度第8回教務委員会メール審議を経て、令和5年度 第6回運営会議にて令和5年8月27日から令和6年6月2 7日までの留学が承認された、4M2 関口佳汰さんから、 留学期間変更願が提出されました。理由は、留学先の今年度 課程が5月をもって終了することとなり、その後5日以内に 帰国することが留学プログラムによって定められているため です。
第2回	令和6年6月17日	1.知能・技能審査による単位認定について【資料1】 2.グローバル研修の単位認定について【資料2】 3.学生の休学について【資料3】 4.学生の退学について【資料4】 5.授業時間90分化の是非について 6.再試験の規則について
メール 第3回	令和6年6月19日	1.他大学等履修申請について 本科生4名の、茨城大学（前学期集中）地域協創PBLの履 修申請について
メール 第4回	令和6年7月6日	1.留学期間終了に伴う復学について【資料1】 ・令和5年8月27日から West Park High School 留学し ていた関口佳汰さん（出発時3M2）が留学を終了し、本人か ら復学願及び留学報告書を受領したことによる留学期間終了 に伴う復学について

		<p>2.留学期間終了に伴う留学当初に在籍した学年の単位認定について【資料1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学期間終了に伴い、留学先の学校で修めた科目の成績を受領したことによる留学開始時在籍した機械・制御系（制御コース）3年生の受講科目の単位認定について</li> </ul> <p>なお、単位の認定は、留学規則 第7条により、個々の科目については行わず 60 単位を超えない範囲で一括して行う。</p> <p>3.学生の休学について（1名）【資料2】</p> <p>本科生1名の休学について</p>
第3回	令和6年7月22日	<p>1.学生の休学について【資料1】</p> <p>2.知能・技能審査による単位認定について【資料2】</p> <p>3.他大学等における授業科目の履修申請について【資料3】</p> <p>4.再試験の申し合わせの改正について</p> <p>5.これまでの時間割について</p> <p>6.R7年度時間割について</p> <p>7.R8年度入学以降の教育課程について</p>
第4回	令和6年8月19日	<p>1.令和6年度 MIPPE プラスにおける社会貢献活動について【資料1】</p> <p>2.インドネシアガジャマダ大学フィールドスタディについて【資料2】</p> <p>3.知能・技能審査による単位認定について【資料3】</p> <p>4.R7年度90分化について</p> <p>5.その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不正行為の成績評価について</li> <li>・期中におけるシラバスの変更について</li> </ul>
メール 第5回	令和6年8月28日	<p>1.学生の休学について【資料1】</p> <p>本科生2名の休学について</p> <p>2.学生の退学について【資料2】</p> <p>本科生2名の退学について</p> <p>3.研究生の研究期間延長について【資料3】</p> <p>研究生1名の研究期間延長について</p> <p>4.他大学等開講科目の単位認定について【資料4】</p> <p>放送大学開講科目を受講した学生の単位認定について</p>
メール 第6回	令和6年9月10日	<p>1.研究生の退学について【資料1】</p> <p>研究生2名の退学について</p>

		2.他大学等開講科目の単位認定について【資料2】 豊橋技術科学大学開講科目を受講した学生の単位認定について
メール 第7回	令和6年10月4日	1.他大学等履修申請について 本科生1名の、富山高専（後期）1科目の履修申請について
メール 第8回	令和6年10月8日	1.研究生の退学について【資料1】 研究生1名の退学について
第5回	令和6年10月21日	1.茨城工業高等専門学校研究生規則の一部改正について【資料1】 2.申合せ（修得すべき科目とみなす単位（振替単位）の認定に係る取扱い）の制定について【資料2】 3.TOEIC-IP(オンライン)の受験結果の単位振替について【資料3】 4.令和7年度時間割について【資料4】 5.令和8年度以降の教育課程表について 6.定期試験の実施期間について【資料5】
メール 第9回	令和6年11月13日	1.研究生の退学について【資料1】 研究生1名の退学について 2.知識・技能審査による単位認定について【資料2】 18名延べ19件の知識・技能審査による単位認定について
第6回	令和7年1月16日	1.学生の退学について【資料1】 2.研究生・聴講生・科目等履修生規則の一部改正について【資料2】 3.知識・技能審査による単位認定申請について【資料3】 4.令和6年度グローバル（特別）研修の単位認定について【資料4】 5.令和7年度時間割について 現在、連絡票の不備、不明点等について確認中。 6.令和7年度Webシラバスについて 7.新MCCへの対応について 8.再試験の運用に関する申し合わせについて【資料8】 9.R7年度行事予定表【資料9】 10.R8年度入学生教育課程表の改訂について【資料10】 11.その他

		・授業時間数について
メール 第10回	令和7年1月24日	1.他大学等の履修について【資料1】 本科生1名の、放送大学1科目(2025年度1学期)の履修申請について 2.知識・技能審査による単位認定について【資料2】 6名延べ6件の知識・技能審査による単位認定について
第7回	令和7年2月5日	1.再試験の運用に関する申合せの一部改正について【資料1】【資料2】 2.仮進級関連規則の一部改正について【資料3】 3.申合せ(不正行為を疑われたが不正行為を認定されなかった学生の追試験について)の制定について【資料4】 4.令和8年度以降入学生に係る教育課程について【資料5】 5.その他
メール 第11回	令和7年2月12日	1.知識・技能審査による単位認定について【資料1】 6名延べ7件の知識・技能審査による単位認定について 2.社会貢献活動による単位認定申請(MIPPEプラス)について【資料2】 13名の社会貢献活動による単位認定申請について 3.インターンシップ(企業実習)の単位認定について【資料3】 88名の企業実習の単位認定について 4.グローバル(特別研修)の事前申請について【資料4】 以下3件の研修終了後、必要書類を学生課に提出することで、本科生の場合はグローバル研修、専攻科生の場合はグローバル特別研修の単位振替の申請について (研修名) No.1 ルーアン応用科学大学研修 No.2 マレーシア:フィールド&英語研修 No.3 シンガポールスマート&グローバル研修
メール 第12回	令和7年2月18日	1.知識・技能審査による単位認定について【資料1】 1名延べ1件の知識・技能審査による単位認定について審議をお願いします。

メール 第13回	令和7年2月26日	<p>1.社会貢献活動の事前申請について【資料1】 学生1名の社会貢献活動実施について</p> <p>2.他大学等開講科目の単位認定について【資料2】 放送大学開講科目を受講した学生1名の単位認定について、富山高専開講科目を受講した学生1名の単位認定について</p>
メール 第14回	令和7年3月4日	<p>1.社会貢献活動の事前申請について【資料1】 学生2名の社会貢献活動実施について</p>
第8回	令和7年3月11日	<p>1.R7年度時間割に関して</p> <p>2.再試験申合せについて【資料1】</p> <p>3.R7年度行事予定表について【資料1】</p> <p>4.4年次仮進級の導入について【資料1】【資料2】</p> <p>5.副専攻科目の見直しについて【資料1】</p> <p>6.教育課程表の修正について【資料1】</p> <p>7.R7年度以降の評価担当業務の教務委員会への移管について【資料3】</p> <p>8.令和7年度研究生について【資料4】</p> <p>9.令和7年度本科1年入学生の戸籍上の氏名とは異なる名称の学内使用について【資料5】</p>
メール 第15回	令和7年3月12日	<p>1.社会貢献活動の単位認定及び企業実習の単位認定並びに卒業の認定について【資料1】【資料2】 学生1名の社会貢献活動の単位認定及び企業実習の単位認定について 単位認定後は、当該学生の卒業認定について</p> <p>2.社会貢献活動の単位認定並びに卒業の認定について【資料3】 学生1名の社会貢献活動の単位認定について 単位認定後は、当該学生の卒業認定について</p>
第9回	令和7年3月21日	<p>1.学生の休学について【資料1】</p> <p>2.学生の復学について【資料2】</p> <p>3.学生の退学について【資料3】</p> <p>4.4年次仮進級の導入について【資料4、5】</p> <p>5.茨城工業高等専門学校数理・データサイエンス・AI教育プログラム運用指針の改訂について【資料6、7】</p> <p>6.茨城工業高等専門学校数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)運用指針の制定について【資料</p>

		<p>8】</p> <p>7. R6 年度 茨城高専 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）の自己点検【資料9、10】</p> <p>8. 7 年度以降の評価担当業務の教務委員会への移管について【資料11】</p> <p>4 月の教務委員会で申し合わせ等の承認を得て、R7 年度から実施の予定</p> <p>9. 令和7 年度本科1 年入学生の戸籍上の氏名とは異なる名称の学内使用について【資料12】</p>
メール 第16 回	令和7 年3 月24 日	<p>1. 社会貢献活動の単位認定及び企業実習の単位認定並びに卒業の認定について【資料1】【資料2】</p> <p>学生1 名の社会貢献活動の単位認定及び企業実習の単位認定について</p> <p>単位認定後は、当該学生の卒業認定について</p>

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ①令和8 年度入学生から適用させるべく見直しを進めていた教育課程については、一般科目及び主専攻科目はほぼ終えたが、副専攻科目の見直し及び全体での見直しが十分ではなかったため、令和9 年度入学生から適用できるように作業を進める。
- ②令和7 年度から授業時間を2 コマ連続90 分授業とする。ただし、2 コマ連続の授業が難しい科目については、従来どおり1 コマ50 分授業として、90 分授業と50 分授業のハイブリット授業時間割になる。
- ③現在、本科1，2，3 年生に適用している仮進級制度について、令和7 年度から本科4 年生に本科1，2，3 年生とは別の条件で適用する。
- ④再試験申合せの改正を行うとともに、令和7 年度行事予定において後期の再試験期間を例年より約1 週間遅くして、再試験までの指導時間を確保した。
- ⑤令和8 年度に受審する機関別認証評価に備えて、これまで自己点検・評価委員会が実施していた教務に係る業務が、令和7 年度から教務委員会に移管される。
- ⑥令和6 年度も選択科目の履修申請を Google Forms による Web 登録方式として登録作業の効率化を図った。

## (3) 今後の展開

- ①教育課程の変更については、一般科目、主専攻科目及び副専攻科目を含めた全体での見直しを行い、令和9 年度入学生から適用できるように作業を進める。
- ②令和7 年度から教務委員会で行う教務に係る評価業務について、P D C A サイクルが効果的に回るよう業務を進める。

- ③令和7年度から授業時間を2コマ連続90分授業と従来の1コマ50分授業のハイブリッドとするにあたり、問題及び課題が出たら都度検証し対応する。
- ④高専機構本部から要請されている数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）の申請を行う。

### 3. 教育内容等（専攻科委員会）

#### （1）取組実績

専攻科の教科履修及び学籍等については、専攻科委員会において立案の上、次の活動を行った。

##### ①地域社会及び産業界との連携

令和6年度の特別実験においても、地元の企業が抱える様々な課題を提供してもらい、本校の学生がそれらの課題解決に取り組み実践力を養うことを目的とした地域相互誘起型課題解決実践教育プログラム（Ibaraki Regional Mutually Inductive Problem-solving Practical Education Program 略して「iR-MIPPEプログラム」）を実施した。

協力企業名：株式会社カネカ、日本フルックス株式会社、株式会社宮本冷機、株式会社日立技研、APRESIA Systems（アプレシア システムズ）株式会社

令和7年2月5日（水）に本校視聴覚教室において成果発表会を行った。協力企業の方、外部講師の方にも成果発表会にご出席いただいた。

また、キャリア教育の一環として、令和6年5月14日（火）に、ディップ株式会社 人財開発育成部 人財開発育成課 赤堀 聡平 様に職種理解（情報）及び東京エレクトロン株式会社 人事部 スタッフィンググループ 阪井 素子 様に職種理解（製造業）について、また、令和6年6月18日（火）に、有限会社アーツプランディア 代表 郡司 敦子 様に金融教育について、専攻科1年生を対象として講演いただいた。

##### ②特例適用専攻科に係る変更の届出

令和7年度入学生から適用する学修総まとめ科目の指導教員について3名（新規3名）が申請を行い、1名が電気電子工学及び応用化学の区分で申請が認められた。このことにより、令和6年度末で退職及び異動する教員を除き、令和7年4月1日現在での学修総まとめ科目担当教員は31名となった。

##### ③特例適用による学位申請

特例適用専攻科として、学位規則第6条第1項に規定する学士の学位の授与の特例に係る学位授与申請を独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に行い、専攻科を修了した2年生23名が学位を取得した。

##### ④令和6年度専攻科委員会

令和6年度は以下のとおり委員会を2回開催し、メール審議を1回実施した。

回数	開催日	議題
第1回	令和7年1月16日	1. 各規則等の見直し及び制定について 2. 令和7年度専攻科コース担当教員一覧について

		3. その他
第2回	令和7年2月12日	1.専攻科実務研修の単位認定について 2.専攻科2年生単位修得認定について 3.その他
メール 第1回	令和7年3月17日	1.学生の休学について（1名） 2.学生の復学について（1名）

#### ⑤規則等の制定及び改正について

専攻科生にも本科生と同様に特別欠席を適用させることを目的として、規則の一部改正及び特別取扱要領を制定した

- ・茨城工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則の一部改正
- ・茨城工業高等専門学校専攻科における欠席、欠課、遅刻及び早退に関する特別取扱要領制定

#### ⑥茨城大学との連携による先端科学技術講演会について

下記のとおり本科生、専攻科生及び教職員を対象として先端科学技術講演会を3回開催した。

令和6年7月3日（水）：第7回

講演内容：「コロイド化学を基礎とした機能性複合ナノ粒子の開発と実例」

講師：小林 芳男（理工学研究科（工学野）物質科学工学領域 教授）

令和6年10月16日（水）：第8回

講演内容：「モーターを自在に制御する技術」

講師：岩路 善尚（工学部電気電子システム工学科 教授）

令和6年12月4日（水）：第9回

講演内容：「医療・衛生分野での活用を見据えた微粒子合成」

講師：山内 紀子（工学部物質科学工学科 准教授）

## （2）自己評価（改善含む）及び課題

- ①特例適用による学位申請については、令和6年度の申請から、これまで10月に申請していたところ7月申請に変更となり、例年より申請が3ヶ月前倒しされたことに伴い、対象者への学位申請手続きの説明を4月に行った。関係教員の指導等により、申請期限までに対象者全員が申請した。

- ②「iR-MIPPEプログラム」の内容について

学生が企業に出向き、動画撮影のスキル等を学ぶという内容が専攻科の特別実験としてふさわしいのか。

本科で実施している「学生実験」のアドバンス版を取り入れたいという意見がある一方で、学生からは「iR-MIPPEプログラム」で学んでいる動画撮影のスキルが役に立っているという意見もある。また、「iR-MIPPEプログラム」については希望者（熱意のある子）のみとする方法も考えられる。次年度は現状どおりに進めるとしても、それ以降については実施内容の変更を検討していく。

③「先端科学技術講演会」の実施方式について

「先端科学技術講演会」は現在茨城大学の教員が本校に来校し、学生や教職員を対象に講演してもらう形となっているが、現状参加希望者が多くない。したがって、茨城大学側と予め協議した上で、次年度以降の「先端科学技術講演会」の実施方式について今後検討していく。

**(3) 今後の展開**

①令和8年度以降の「iR-MIPPEプログラム」の実施内容の変更について検討していく。

②「先端科学技術講演会」の実施方式について検討していく。

## 4. 学生支援（学生委員会）

### （1）取組実績

#### ① 課外活動支援

課外活動支援の取り組みについては、以下の部活においてコーチを委嘱した。

- ・ロボット部、茶道部、吹奏楽部、卓球部、ソフトテニス部、硬式野球部、剣道部

今年度の体育大会、コンテスト等での実績。

#### ■運動部

##### 【関東信越地区高等専門学校体育大会】

- ・陸上競技
  - ：藤田正勝 800m 3位
  - ：吉田光太郎 走高跳1位、三段跳2位
  - ：大塚隆道 走高跳1位
  - ：足立結菜 女子走幅跳3位
- ・水泳競技
  - ：梅内星弥 800m自由形1位
  - ：川上暁芽 200m個人リレー1位
  - ：大竹亜門 200m平泳ぎ2位、100m平泳ぎ3位
  - ：高野広乃 100m背泳ぎ3位、200m個人メドレー3位
- ・バレーボール競技：男子 優勝
  - ：女子 準優勝
- ・バスケットボール競技：予選敗退
- ・サッカー競技：初戦敗退
- ・テニス競技：男子団体3位
  - ：猪狩遥斗・片庭辰己 男子ダブルス3位
- ・ソフトテニス競技：ベスト8以下
- ・卓球競技：男子団体 準優勝
  - ：重松祐太・富田颯人 男子ダブルス準優勝
- ・バドミントン競技：鈴木寿奈 女子シングルス3位
- ・柔道競技
  - ：高久隆之介 個人戦66kg級優勝
  - ：湯原太智 個人戦73kg級3位
- ・剣道競技：男子団体 優勝

##### 【全国高等専門学校弓道大会 関東信越地区予選】

- ・弓道競技：男子団体 準優勝
  - ：女子団体 優勝

：男子個人 神保琳太郎 2位

：女子個人 山本夏寧 1位

#### 【全国高等専門学校体育大会】

- ・陸上競技 : 4位以下
- ・水泳競技 : 4位以下
- ・バレーボール競技 : 予選敗退
- ・卓球競技 : 予選敗退
- ・バドミントン競技 : 初戦敗退
- ・柔道競技 : 初戦敗退
- ・剣道競技 : 予選敗退

#### 【全国高等専門学校弓道大会】

- ・弓道競技 : 予選敗退

#### 【国体】

- ・陸上（男子走高跳） 第6位：大塚隆道

#### 【ジュニアオリンピック】

- ・夏季水泳競技（3m飛板飛込）第4位：末次心温
- ・夏季水泳競技（高飛込） 第3位：末次心温

#### 【インターハイ】

- ・水泳飛込（女子シンクロナイズド3m飛板飛込）第2位：末次 心温
- ・水泳飛込（女子高飛込）第6位：末次 心温
- ・陸上（男子走高跳） 出場：大塚 隆道

#### ■文化部

##### 【アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024】

- ・ロボット部 : 出場

##### 【全国高等専門学校将棋大会】

- ・将棋部 : 予選敗退

以下大会において運営を行った。

【全国高等専門学校弓道大会 関東信越地区予選】

- ・ 7月13日（土）@本校弓道場

【関東信越地区高専体育大会】

- ・ 卓球競技：6月29日（土）～30日（日）@ひたちなか市総合運動公園総合体育館
- ・ 水泳競技：7月6日（土）@笠松運動公園 山新スイミングアリーナ

【第46回関東信越地区高専文化発表会】

- ・ 8月31日（土）～9月1日（日）@ひたちなか市文化会館

## ② 学費に関すること

奨学金、授業料免除および就学支援金に関する情報は校内掲示板、HP 掲載、保護者への文書通知等により情報提供を行った。

- ・ 奨学金一覧（○）は受給実績あり
  - ・ 日本学生支援機構 貸与型（○）
  - ・ 日本学生支援機構 給付型（○）
  - ・ 若築建設奨学金（○）
  - ・ 岸川光男記念奨学基金（○）
  - ・ 中川育英会奨学金（○）
  - ・ 天野工業奨学金（○）
  - ・ 自立応援入学支援金（○）
  - ・ オリエンタルモーター奨学財団奨学金（○）
  - ・ 川村育英会（○）
  - ・ 山新育英財団奨学金（○）
  - ・ 日本国土開発未来研究財団奨学金（○）
  - ・ 宇野澤奨学会（○）
  - ・ 住友電工グループ社会貢献基金（○）
  - ・ 龍ヶ崎市奨学金（○）
  - ・ 富山文化財団奨学金（○）
  - ・ 朝鮮奨学会（○）
  - ・ 水戸市奨学金（○）

- ・井門奨学財団（○）
  - ・茨城高専奨学金（○）
  - ・ウシオ財団奨学金
  - ・ニコン奨学金
  - ・コマツ奨学金
  - ・金川千尋未来化学財団
  - ・関電工奨学金
  - ・あしなが育英会奨学金
  - ・交通遺児育英会奨学金
  - ・アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学生
  - ・関育英奨学会
  - ・本庄国際奨学財団奨学金
  - ・フソウ育英会奨学金
  - ・ビヨンドトゥモロー奨学金
  - ・茨城県奨学金
  - ・ひたちなか市奨学金
  - ・日立市奨学金
  - ・大洗町奨学金
- 
- ・入学金免除（減免）： 1 名
  - ・授業料免除（減免） 前期：全額免除（減免） 14名    2 / 3 減免18名    1 / 3 減免9名  
1 / 4減免5名
  - ・授業料免除（減免） 後期：全額免除（減免） 16名    2 / 3 減免15名    1 / 3 減免8名  
1 / 4減免5名
  - ・日本学生支援機構奨学生 第1種 9名、 第2種 4名

### ③ 学生会活動

- ・ 令和7年度学生会長選出  
瀬戸山 莉羽（化学・生物・環境系3年） 会長選挙投票率18%
- ・ 学生会と学校長との懇談会
- ・ 校内レクリエーション  
(バドミントン大会、イントロクイズ大会、障害物リレー大会)

### ④ イベント

- ・ 校内体育大会 10月15日(水)

- ・ 茨香祭 10月26日(土)～27(日)
- ・ 芸術鑑賞会 12月12日(木) 内容：古典芸能(落語「桂宮治の落語ライブ」)

#### **⑤ 学生への安全指導**

学生の安全指導に関し、以下セミナーを実施した。

- ・ 非行防止講演会 (1年)
- ・ サイバー犯罪防止講演会 (2年)
- ・ 薬物乱用防止講演会 (2年)
- ・ 交通安全防止講話 (1年・3年)
- ・ 消費生活講演会 (3年)
- ・ 選挙制度セミナー (4年)
- ・ 年金セミナー (5年)

ひたちなか市開催「社会を明るくする運動」にて、学生会執行部学生2名が参加(引率：学生主事補)。

学生主事・主事補で、校外巡回を複数回行った。

#### **⑥ 施設改修**

- ・ 合宿研修所：教員部屋の畳張替え、エアコンの購入
- ・ 学生会室：エアコン購入。

#### **⑦ 預り金**

- ・ 預り金規則に基づき、3団体が前年度から使用継続した。
- ・ 3団体が新規使用を開始し、そのうち1団体が3月末で運用を停止した。

#### **⑧ 懲戒処分を伴う学生の問題行動への対応**

- ・ 試験中のカンニング、構内でのたばこの喫煙、車・バイク無許可通学者事案があり、再発防止に取り組んだ。

#### **⑨ 規則制定、改正及び廃止**

- ・ 学生懲戒規則改正

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 体育大会・コンテスト等での学生の活躍については、2名の学生がインターハイに出場。そのうち、飛込みの末次さんが第2位入賞と素晴らしい記録を残した。今後も学生の安全管理に注意しながら、課外活動を通じて健康な身体と責任感や協調性等が養成されるよう取組みをサポートしたい。
- ② 教育機会の平等という観点から、意欲・能力のある学生が経済的な面で心配することなく、安心して学べるよう、経済的に困窮している世帯の教育費負担の軽減を図る奨学金等の積極的利用を呼びかけた。
- ③ 学生の自主性や積極性が損なわれないよう、学生会活動を指導し、サポートした。今後も引き続き学生とのコミュニケーションを密にし、より学生会活動が充実したものになるよう指導を継続する。
- ④ H30以降、6年ぶりの入場制限なしの茨香祭を開催した。飲食ブースを設置したほか、漫才コンビ「オスペンギン」による消費者トラブル防止のステージ、花火等で大盛況であった。実行委員会は消防・保健所への届出等を行い大きなトラブルなく行った。
- ⑤ 学生への厚生補導の一環で学年別にセミナーを行った。専門家から直接知識や情報を得ることで、学生の意識改善につながった。
- ⑥ 学生会室に冷暖房設備がなく、教室環境が悪かったため、エアコンの設置を行った。
- ⑦ 預り金の適切な運用を行った。
- ⑧ 学生委員会にて、学生の懲戒について審議し、再発防止に向けた指導を行った。
- ⑨ 機構本部との機関別認証評価 及び 教育アセスメントに関する打合せでの指摘に対応し、懲戒規則の文言を修正した。

## (3) 今後の展開

空調設備や安全対策強化など積極的に環境整備を行い、学生の学習意欲を高め、充実した学校生活を送れるようにサポートをすることが必要だと考える。

## 5. 寮生支援（寮務委員会）

### （1）取組実績

#### ①寮生数について

年度当初寮生数	217人	入居率 81.8%
年度途中入寮者	3人	
年度途中退寮者	11人	
年度末寮生数	208人	入居率 78.4%（卒寮生及び年度末退寮生を含む）

3年生までを基本とした学寮であるが、空室がある場合は、入寮更新を希望する新4.5年生のうち、自宅からの距離、リーダーシップ、素行、成績を鑑みて順位付けを行い、指導寮生（補助）として入寮更新を認めている。

入居率については、それぞれ、従来の定員での入居率（81.8%→78.4%）と表している。

#### ②二人部屋の運用再開

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、新友館の二人部屋を一人で使用する事としていたが、令和6年度より二人部屋としての運用を再開した。

#### ③寮生保護者向けのメール配信システム（マチコミ）の継続運用

寮生保護者向けの連絡手段とした構築したメール配信システム（マチコミ）を継続運用し、寮生保護者会総会や同臨時総会の開催、保護者への各種照会、意向確認等において活用した。

#### ④寮内設備の充実化

令和6年度における対応は以下のとおりである。

- ・西友館、新友館、紫峰館、北友館の学生居室 191 室のエアコンを交換した。
- ・同 191 室の清掃を外部業者に委託し行った。
- ・紫峰館 4 F 洗濯機の修繕をした。
- ・北友館の 1 F と 3 F の談話室の故障していたテレビを交換した。
- ・故障していたプリンター 2 台、電子レンジ、掃除機の新調をした。
- ・寮生からの要望により虹友館と北友館に電気ケトルを設置した。
- ・西友館 5 F 居室のベッドフレームを新調（5 台）した。
- ・寮食堂入口のスズメバチ発生によるシャリンバイの伐採をした。
- ・寮に関する各申請書類をデータファイル化してオンラインにて寮生たちに共有・掲示した。
- ・寮食堂のアレルギー対応について医療機関受診による資料提出義務化した。

- ・寮食堂における禁止食対応の変更（宗教・アレルギーによる食材代替サービス）をした。

⑤寮食堂について

老朽化している厨房機器類を更新した。寮生数の増加に伴い食堂のスペースが限られることから、昼食時間を前半と後半に分ける入替制を継続した。

⑥宿日直業務について

宿日直業務の一部外部委託を継続し、教員の負担軽減を図った。教員が当直の際は全体指導を行った。

⑦避難訓練について

春に火災、秋に地震を想定した避難訓練を実施した。

⑧寮務委員会

第1回 令和6年4月15日（月）

1. 寮務委員の業務分担について
2. 運営方針について
3. 学生問題行動に関する審議について

第2回 令和6年4月16日（火）

1. 寮生の処分について

第3回 令和6年5月30日（木）

1. 茨城工業高等専門学校寄宿舎教員宿日直に関する申し合わせの改正

第4回 令和6年6月25日（火）

1. 令和5年度寮費決算案
2. 令和6年度寮費予算案
3. 寮生保護者会規約改定
4. いじめ報告

第5回 令和6年7月2日（火）

1. 寮生の問題行動に対する指導案について

第6回 令和6年10月19日（木）

1. エアコン電気代の申し合わせの改定について
2. 寮生心得の改定
3. いじめ報告

第7回 令和7年3月12日(水)

1. 令和7年度学寮運営方針について
2. 令和7年度学寮食堂について
3. 令和7年度学寮食堂におけるアレルギー対応について
4. いじめ報告
5. その他

⑨学寮行事

期日	内容
令和6年4月3日(水)	開寮、新入寮生オリエンテーション
令和6年4月25日(木)	学寮避難訓練(火災)
令和6年5月2日(木)	簡易閉寮
令和6年5月7日(火)	開寮(授業開始9:30に変更15時開寮受付, 寮食は昼食から)
令和6年5月15日(水)	寮生総会(寮生会予算・決算)
令和6年6月9日(日)	新入寮生歓迎会
令和6年6月26日(水)	非常時の在寮確認訓練(暴風雨時点呼)
令和6年8月7日(水)	閉寮
令和6年8月17日(土)	学校説明・見学会(学寮説明会)
令和6年9月13日(金)	寮生保護者会総会(マチコミメールを使用)
令和6年9月18日(水)	開寮、一部寮生部屋替え
令和6年10月5日(土)	寮祭(BBQ、ビンゴ大会)
令和6年10月23日(水)	学寮避難訓練(地震)
令和6年12月5日(木)	学寮建物等の美化作業
令和6年12月26日(木)	閉寮
令和7年1月6日(月)	開寮(授業開始9:30に変更15時開寮受付, 寮食は昼食から)
令和7年2月5日(水)	卒寮生追い出し会
令和7年2月7日(金), 8日(土)	閉寮日、部屋替え
令和7年2月27日(木)	新1年生の入寮面接

#### ⑩規則等の改正等

- ・「茨城工業高等専門学校寄宿舎教員宿日直に関する申し合わせ」の一部改正
- ・「寮生保護者会規約改定」の一部改正
- ・「エアコン電気代の申し合わせ」の一部改正
- ・「寮生心得」の一部改正

#### ⑪寮生の体調管理

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策に関する方針を継続し、寮生が体調不良になった場合は、発熱の目安を37.5度以上とし、風邪に似た症状がある場合には速やかに保護者に連絡をとって帰宅するよう指導した。

#### ⑫寮食堂（と学校食堂）での台湾米への切り替え

米の高騰により、従来の日本米での提供が困難となり、台湾米による主食の提供が開始された。現状、価格高騰による一時的な措置であり、価格が戻れば再度日本米の提供が再開される。今後の米価格の変動を注視しながら食堂業者との調整を引き続き行っていく。

#### ⑬短期留学生受入について

同一ブロックの近隣高専に在籍している留学生17名を、本校の寮に受入れて日本語学習合宿を行った。また、ひたちなか市役所と調整して本校留学生より2名がホームビジットを行った。そのほかフランスのルーアンからのインターンシップで6名、朝鮮理工大学より10名の短期受入を行った。

### (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 新型コロナウイルス感染症が5月に感染症法上の5類に変更されたことに伴い、寮祭におけるバーベキューの復活等、寮生同士の交流を促す施策を本年も実施した。本年においては無事、感染拡大は発生せずに終えることができた。引き続き、感染症の状況を考慮しながらではあるが、寮生・教職員同士のコミュニケーションの促進をはかりたい。
- ② 他者との共同生活に難がある寮生の対応や、寮のルールを守らず違反を繰り返し、秩序を乱す寮生に対する指導など、個別対応が必要な事案は多い。保護者や担任、学生健康センターなど、関係者との連携がより重要となっている状況は依然続いている。
- ③ 違反を繰り返す寮生の対応、また昨今の情報公開の重要性が増した時勢に鑑み、寮の内規である違反ポイント制度を公開した。今後は、違反ポイント制の運用と寮生・保護者への正しい周知が課題である。
- ④ 本年度は主事補・事務職員の人員数削減と異動、学生居室191室のエアコンの更新、

寮食堂業者入札、アレルギー・宗教食対応の変更など寮の運営基盤に係る更新事項が多くあった。例年とは異なる条件や環境での運営となったが、来年度は本年の経験を活かし運営の改善を図りたい。

- ⑤ 本校在籍留学生、短期留学生ともに人数・案件が増加している。寮務主事、主事補をはじめ、学生寮指導員や事務職員の負担も同様に増加している。また、部屋数の確保と同時に使用できるキッチンも、宗教などの理由から確保も難しく、今後の受入れにも寮食堂での食事が可能な学生かどうか等の事前調整が必須と思われる。

### (3) 今後の展開

新型コロナウイルス感染症の指定が変更されたとはいえ、共同生活の運営上、予断は許されない状況が続いている。ただし、このような状況にあっても、寮生の寮での生活・経験を充実させるため、コロナ禍前の寮生イベントの復活、ひいては新しいかたちでのアップデートが必要である。教職員として寮生を指導・サポートし、積極的な寮生同士の交流を促していきたい。また、西友館は令和10年3月に新築後30年になり、建物改修に向けた準備期間が令和7年3月時点で残り3年となる。西友館は、定員100名の全個室の建物のため、建物改修に向けたハードルはとて高くなる。西友館の建物改修のために単純に男子寮生の定員を100名減で運用してしまうと、本校の入試倍率に大きな影響を与えることが予想できる。このために、マスタープラン策定に向けて全学的な協力・検討が必要である。

## 6. 広報活動（広報戦略室及び広報委員会）

### （1）取組実績

広報活動については、学生、保護者、職員、卒業生及びその他関係機関並びに地域社会に対し本校を正しく認識してもらうことを目的として、広報戦略室及び広報委員会において立案の上、次の活動を行った。

#### ① ホームページでの情報発信及び更新

ホームページについては、広報活動の最重要な手段と捉えている。

本校の取り組み及び学生の活躍等を掲載ニュースとし積極的に取り上げ、本校の魅力発信につなげた。また、取材申し込みお問い合わせフォームや、「各種 SNS」サイトを新設したことで HP の充実化を図った。

#### ② 「学校要覧」の刊行

「令和6年度版 学校要覧」について、前年度版のデータ更新を行い、1,000部刊行した。主に求人企業、地域連携機関、入試広報及び来客者等に配布し案内を行った。

#### ③ 「キャンパスガイド」の刊行

「キャンパスガイド2025」について、前年度版のデータ更新を行い、6月に7,500部刊行した。学校説明会等で中学生及び保護者へ、中学校訪問時に中学校教諭に配布し案内を行った。

また、令和6年度の「茨城高専アソビサイエンス」(※)を開催したため、当該イベント会場においても配付を行った。

※ 高専スタートアップ教育環境整備事業の一環として以下のとおり開催。

本校60周年記念事業としても実施。

1. 令和5年9月9日（土）、10日（日） イーアスつくば
2. 令和6年2月17日（土）、18日（日）イオンモール水戸内原
3. 令和6年3月20日（水・祝）、21日（木） イーアスつくば
4. 令和6年9月7日（土）、8日（日） イーアスつくば
5. 令和7年3月20日（祝木）、21日（金） ヒタチエ

「茨城高専 学校案内 MINI CAMPUS GUIDE」初刊を刊行

キャンパスガイド冊子版を簡略化した三つ折り版リーフレットを3月に10,000部刊行した。主に入試広報及び広報イベントへ参加した小学生・保護者向けに配布するものとする。

[R6 配布実績]「茨城高専アソビサイエンス@ヒタチエ」にて配布  
 令和7年3月20日(祝木)、21日(金) ヒタチエ

④ 令和6年度おもしろ科学セミナーの開催

小学生に理科の楽しさを体験してもらうことを目的として、令和6年度おもしろ科学セミナーを開催した。おもしろ科学セミナー当日は150名が受講した。

講座番号	テーマ名	受講者数
1-A	【午前の部】紙コップロボットを作ってAIを体験しよう！	14
1-B	【午後の部】紙コップロボットを作ってAIを体験しよう！	19
2-A	キラキラな結晶を作ってみよう！	16
2-B	キラキラな結晶を作ってみよう！	13
3	電池がなくても聞こえるラジオを作ろう！	19
4-A	【午前の部】 しゅみレータで世界をコンピュータの中に	4
4-B	【午後の部】 しゅみレータで世界をコンピュータの中に	7
5-A	【午前の部】 あれも化学！これも化学！やってトライ夏休み自由研究2024	17
5-B	【午後の部】 あれも化学！これも化学！やってトライ夏休み自由研究2024	14
6	電気と磁気の不思議な力！ローレンツ力で遊ぼう	12
7	作って楽しい！見て感動！立体万華鏡！	15

⑤ 公開講座の開催

本校では、学校広報、社会貢献の一環として、中学・高校生、一般市民を対象に公開講座を開講している。令和6年度については、開講した講座は1講座にとどまった。

講座の名称	受講定員	受講者数
ラベンダーせっけんを作ろう！	10	4
計	10	4

## ⑤広報委員会

### 1)第1回

日時：令和6年5月14日（火）

- 議題：
1. 広報戦略室について
  2. 令和6年度年度計画について
  3. 高専だよりについて
  4. 令和6年度公開講座について
  5. おもしろ科学セミナー2024について
  6. 「茨城高専キャンパスガイド2025」の編集について
  7. 令和6年度学校要覧の編集について
  8. その他

### 2)第2回

日時：令和6年7月30日（火）

- 議題：
1. 広報戦略室について
  2. 茨城高専ホームページ（タイ語版）の閉鎖について
  3. おもしろ科学セミナー2024について
  4. 茨城高専ホームページの更新状況確認について
  5. CMSアカウントの発行について
  6. キャンパスガイド2025の発行について
  7. 令和6年度学校要覧の発行について
  8. その他

### 3)第3回

日時：令和6年12月17日（火）

- 議題：
1. おもしろ科学セミナー2024 アンケートの集計結果について
  2. おもしろ科学セミナー2025開催（案）について
  3. 令和7年度公開講座の募集（案）について
  4. 「茨城高専キャンパスガイド2026」の編集について
  5. キャンパスガイド三つ折り版の編集について
  6. 本校ホームページ更新作業について
  7. 本校ホームページ掲載作業について

8. 本校の取材対応について
9. プレスリリースについて
10. 本校ホームページでの SNS 運用について

#### 4)第4回(メール会議)

日時：令和7年2月10日(月)～令和7年2月14日(金)

議題： 1. 広報委員会規則の一部改正について

### (2) 自己評価(改善含む)及び課題

- ① 本校教職員や学生の活動について、広報戦略室の方針の下で、引き続きホームページ及び SNS 発信を含め積極的に情報発信を行っていく。
- ② 「学校要覧」及び「キャンパスガイド」については、学内の広報関係スケジュールを考慮し、5月下旬から7月下旬を目途に刊行できるよう進めていく。
- ③ 「おもしろ科学セミナー」において、セミナーは好評であり、受講者アンケートで99%が「とてもおもしろかった」(約90%)「まあまあおもしろかった」(約9%)旨の回答であった。
- ④ 公開講座については、開講した講座は1講座にとどまったが、新方針の下、積極的な開講を推進していく。

### (3) 今後の展開

独立行政法人の予算が年々削減される中で、経済的かつ効果的な広報の方法の検討が必要となってくる。広報戦略室立案の下で、各コンテンツの充実を図りながら積極的な情報発信を行っていく。

## 7. 学生健康支援（学生健康センター）

### （1）取組実績

心身の健康維持及び向上を図るとともに、健全な学生生活を送る援助を行うことを目的として、次の活動を行った。

- ① 学生のメンタルヘルスに関する取り組みを行った。
  - ア. 「デートDV」予防教育セミナー：1年生（対面）
  - イ.メンタルヘルス講演会：3年生（対面）
  - ウ.「相談室だより」の発行（HP掲載）
- ② 教職員関連のセミナー開催及び研修会等へ参加し支援体制の充実を図った。
  - ア. 「発達障害支援セミナー」の開催（対面）
  - イ. 「自殺防止セミナー」の開催（対面）
  - ウ. 「エピペン講習会」の開催（動画配信）
  - エ. 第21回全国国立高専学生支援担当教職員研修会：参加（学生主事、センター長、看護師）
  - オ. 第62回全国学生相談研修会：参加（センター長）
  - カ. 第31回グリーンケア・アドバイザー2級認定講座：参加（看護師）
  - キ. 令和6年度文部科学省補助事業学校保健研修会：参加（看護師）
  - ク. スポーツ救護ナース（ベーシック）認定講習会：参加（看護師）
  - ケ. 茨城県内大学及び高等専門学校保健管理担当者情報交換会：参加（看護師）
  - コ. 国立高等専門学校機構本部学生支援スーパーバイザーによる専門職ミーティング：参加（カウンセラー）
- ③ 献血を実施した
- ④ 学校環境衛生検査（学校プール水水質検査、照度検査、空気検査）を実施した
- ⑤ 「こころと体の健康調査」（自殺予防のためのチェックリスト）WEBによるアンケート調査を実施した。
- ⑥ 「学生定期健康診断」を実施した。
- ⑦ 「日本スポーツ振興センター」の災害給付金請求に係る補助業務を行った。
- ⑧ 高専地区体育大会及び学内行事等の救護業務を行った。
- ⑨ 怪我や急病人の対応（応急処置、医療機関付き添い、健康相談、医療機関紹介等）
- ⑩ 学生相談室のインターカー業務を行った。
- ⑪ 「特別支援教育室」における業務補助を行った。
- ⑫ 学生健康センター内打ち合わせを実施した。
- ⑬ 新型コロナ、インフルエンザ等感染症対策を継続的に行った

- ア. サーモ体温測定機の利用
- イ. 非接触型自動消毒機の利用
- ウ. 個室の休養室の利用（必要時監視カメラ作動可）

- ⑭ 学生健康センターホームページの更新
- ⑮ 新入生「健康管理調査書」の有効活用を図る
- ⑯ 救急体制の充実（昇降機、AED、車椅子）

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 対面式セミナーにより、ロールプレイも行い熱心に取り組む姿が見られより理解が深められたことを確認した。今後も学校生活をより健全に送れるよう情報発信し学生相談室を身近に感じてもらえるよう努める。
- ② 主に対面での実施となり、学生対応について質疑応答も有りより多くの情報を理解共有する事に繋がった。
- ③ リーフレット配布、ポスター掲示により献血協力の呼びかけを行う等、事前のアナウンスを充分に行い献血の重要性の理解に繋がり、昨年度以上のより多くの協力を得る事が出来た
- ④ 学校薬剤師による検査を行い検査値は全て基準値内であり良好な環境である事を確認した。
- ⑤ WEB形式によるアンケート調査を実施し調査結果の集計作業を迅速に進めカウンセラーによる「高判定」の学生の速やかな面談を行った。
- ⑥ 1年生は資料配布、2年生以上は g-mail で、実施要領を周知し健診の重要性を理解してもらった上実施する事により受診率の向上に繋がった。
- ⑦ 学校管理下内の怪我等に対する給付金請求がスムーズに行えるよう g-mail により個別対応を行った。
- ⑧ WBGT を活用し熱中症対策、感染症の予防に留意しながら救護活動を行った
- ⑨ 不意に起こる怪我や急病に迅速且つ最善の対応ができるよう「傷病対応マニュアル」を適宜見直し関係者との情報共有を行った。
- ⑩ 来室初期に体調不良の訴えにより休養する学生に対しスクリーナーを行い、メンタルの問題を抱える学生に対しては、相談室と連携しゲートキーパーとしての役割を果たせるよう努めた。また、センター長を中心にカウンセラー、関係教員、センター内スタッフにより適時適切な情報共有を行いチームとしての対応に繋がった。
- ⑪ 「特別支援教育室規則」により専任カウンセラーを中心に連携に努め業務補助を行った。
- ⑫ 合理的でより良い支援を行うために、必要時に情報共有を行い初動が遅れぬよう随時速やかに課題の解決に取り組んだ。
- ⑬ 引き続き感染症予防対策に努めた。
- ⑭ 学生健康センターを気軽に利用出来るよう必要な情報を簡潔明瞭に掲載する等随時 HP の更新を行った。

- ⑮ 「健康管理調査書」のファイル作成を速やかに行いクラス編成や入学後の対応に繋げた。
- ⑯ 車椅子、AED 設置における救急体制の充実の継続。玄関の扉の自動ドアへの改修が望ましい。

### (3) 今後の展開

学生が不安なく、充実した学生生活を送れるよう学習環境を整える為、新型コロナ、インフルエンザ等感染症予防対策における最新のガイドラインに基づいた予防策を講じより良い環境づくりに努める。また、「学生定期健康診断」の受診率向上に努め、自己の健康管理の重要性を理解し役立ててもらおう。

学校生活において様々な環境変化、特性を持つ学生、留学生、県内外の遠方からの入学者も増えており、高専生活に順応出来るよう、より細やかな支援が必要と考えられる。特に、メンタル不調を抱える学生に早期に気づき、適切な対応を行える体制づくりを強化する。関係教職員、外部機関との連携を取り、チームとして速やかな情報共有を行い、支援に繋がる様努める。

## 8. 図書館運営（学術総合情報センター）

### （1）取組実績

本校図書館は和書・洋書あわせて約9万冊の蔵書があり、開架式となっている。コンピュータを用いた図書データベース・電子ジャーナルの検索も充実しており、学生・教職員の学習や調査研究の支援を行っている。

理工系専門図書のほか、文学・哲学などの書籍も多数所蔵している。加えて、平成24年度からは電子書籍を導入し、新しいサービスの提供を開始しコレクションを拡大している。

また、開館時間の延長・土曜日開館を実施することにより利用の拡大を図っている。開かれた図書館として地域市民に閲覧・貸出を行い、地域への貢献を推進している。

#### ① 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施した図書館開館

■ 日本図書館協会の「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」や他高専図書館、大学図書館、近隣公共図書館の開館状況を参考に本校図書館における対策を実施して図書館を開館した。

- 令和6年4月1日から一般利用者開放の再開
- 貸出資料返却時のブックポスト（玄関前に有り）利用の推進
- 図書館サービスカウンターの飛沫防止対策の設置
- 入館の際は、入口でのアルコール消毒の徹底
- 貸出希望図書をEメールで予約の上、図書館窓口で貸出受取りを実施

#### ② 行事实施

##### 1) 図書館ガイダンスの実施

＊新入生対象（クラス単位で説明会を実施）

日 時：令和6年4月15日（月）、16日（火）、17日（水）、18日（木）

場 所：視聴覚教室、クラス教室、図書館閲覧室

＊新入留学生対象

留学生向け図書館利用ガイドを作成して個別に説明した。

##### 2) ブックハンティングの実施（学生図書委員会）

期 間：令和6年5月23日（木）～令和6年6月20日（木）

クラスごとに希望図書を募り、リストを図書館へ提出。

合計126冊の図書を購入した。（経費：後援会費）

##### 3) 図書館カフェの開催

（図書館では、知的情報の拠点を目指すことを活動計画の一つとして挙げており、例年秋季に本校教員の研究に関連したテーマで講演会を開催）

⇒新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和6年度は開催を見送った。

#### 4) 第8回ビブリオバトルの開催

(例年秋季に文章やイラストで推薦本を紹介する本校独自の書評合戦を開催)

募集期間：令和6年9月19日(木)～10月25日(金)

応募総数：13件

投票期間：令和6年11月7日(木)～11月28日(木)

受賞者決定：令和6年12月3日(火)

表彰式：令和6年12月17日(火)12時40分～

(場所：図書館1階 セミナー・交流スペース)

受賞	所属	氏名	書名	作者	おすすめポイント
特別大賞	4M2	市村 杏介	君の話	三秋 縫	お前らには手の届くはずもない恋模様
特別優秀賞	4M2	根本 舞	残酷な世界で生き延びるたったひとつの方法	橘 玲	アンチ自己啓発の点
	4E	大輪 汰練	N	道尾 秀介	720 通り
優秀賞	4M2	柴 昌史	コンビニ人間	村田沙耶香	「普通」とは何かを問うテーマ
	1年5組	吉田 苺香	変な家	雨穴	とにかく怖くて夜眠れなくなる!!
	3M2	川崎 准也	成瀬は天下を取りにいく	宮島 未奈	一人一人の青春へのフォーカス

#### ③企画展示の実施

##### 1) 「ブックハンティング図書」の展示(経費：後援会費)

展示物：学生からのリクエスト図書

##### 2) 「教員推薦図書」の展示(経費：後援会費)

展示物：先生方より推薦された専門図書・参考書等

##### 3) 各賞受賞作品の展示

展示物：2024年本屋大賞受賞作品、第171回・172回 芥川賞・直木賞作品

##### 4) 「第8回ビブリオバトル入賞作品図書」の展示

展示物：第8回ビブリオバトル受賞作品

展示期間：令和6年12月6日(金)～

#### ④図書館環境整備

##### 1) 入口モニターの活用

図書館イベント案内や図書館利用の方法、新着図書のお知らせなどこまめに更新し、ホームページと併せて利用者の図書館活用に役立てた。

## 2) 図書館ホームページの更新

本校ホームページ内にある図書館サイトから情報発信を行った。

茨城高専 HP HOME>施設・センター>図書館

<https://www.ibaraki-ct.ac.jp/facility/library/index.html>

## ⑤各種図書コーナーの配置

### 1) 新着図書コーナー

毎月の継続図書や新着図書を配架。今年度は、学生のリクエスト図書や専門書の購入を積極的に行った。

### 2) 英語試験コーナー

TOEIC、技術英検のテキストや英検、TOEFL、IELTS、GTEC の参考書を展示。英語の論文作成やプレゼンテーションに役立つ図書を展示。

### 3) 新書コーナー

岩波ジュニア、岩波、ブルーバックス吉川弘文館の歴史ライブラリー他、文庫シリーズ多数有り。

### 4) シラバスコーナー

その年のシラバスに合わせて毎年見直しを行い、テキストを整備し学年別に配架。

### 5) 大学編入学対策コーナー

### 6) 進路資格コーナー

資格取得に役立つテキストや参考書、試験問題過去問集等を充実させた。

### 7) 就活コーナー（4年度新設）

就活に役立つ産業界研究参考図書や適性検査、面接対策図書等を充実させた。

### 8) F E 受験コーナー

F E 試験（Fundamentals of Engineering Exam）対策の参考書・問題集を配架

### 9) 本校教員著書コーナー

### 10) メンタルヘルスコーナー

### 11) 文芸部「地雷」コーナー

文芸部誌『地雷』を配架し、活動を応援。

### 12) 留学生コーナー

留学生におすすめの図書を配架。タイ留学生を対象にした英語、タイ語の書籍を整備。

### 13) グローバルコーナー

グローバル関連の図書、国連関連図書に加え、国際連合広報センター発行の広報誌『Dateline UN』国際協力機構広報誌『mundi』を置き、タイムリーな国際情勢を紹介。

## ⑥令和6年度整備図書資料

### 1) ブックハンティング図書 126冊（後援会より寄贈）

学生図書委員が中心となりクラスごとに選書リストを提出、夏季休業前に購入した。自

分たちで選んだ本ということで利用率が高く多数貸出された。

2) 就活図書 13 冊 (後援会より 3 冊寄贈)

企業研究、試験対策、面接対策等、就職活動に役立つ図書を購入した。

3) 教員推薦図書 129 冊 (後援会より寄贈)

教員から推薦された、学習、レポートに役立つ専門書・参考書、その他お勧めの図書などを購入した。

4) シラバス図書 17 冊 (後援会より寄贈)

今年度のシラバスに掲載の図書を購入し、学年ごとに配架した。

5) 専門書 45 冊 (後援会より寄贈)

新出題形式対応 TOEIC、技術英検等、資格取得図書を多数購入した。

専門書は新着展示として入口直ぐのカウンター前書架に配架し多数貸出された。

6) 各賞受賞作品 9 冊 (後援会より寄贈)

芥川賞・直木賞、本屋大賞受賞作品を購入、展示コーナーを作成した。

7) 教員著書 1 冊

茨城高専の教員の著書コーナーへ展示した。

8) 文芸同好会誌 1 冊

文芸同好会誌『エーミールの憂鬱』を文芸部「地雷」コーナー配架し、活動を応援。

9) 地球の歩き方 34 冊 (退職教員寄付金)

地球の歩き方 24 年度発行の外国版を購入した。

⑦蔵書構成等（令和6年度）

1) 図書

分類	和書	洋書	計
総記	3,887	276	4,163
哲学・宗教	4,155	923	5,078
歴史・地理	6,544	239	6,783
社会科学	6,170	355	6,525
自然科学	15,359	3,632	18,991
技術工学	15,427	2,629	18,056
産業	786	17	803
芸術	4,511	108	4,619
言語	6,451	3,240	9,691
文学	19,163	1,458	20,621
計	82,453	12,877	95,330

2) 電子書籍

和書	洋書	計
46	133	179

3) 雑誌

和雑誌	洋雑誌	計
121	7	128

4) 定期購読

- ・国内雑誌：41誌 外国雑誌：2誌（うち後援会寄贈雑誌24誌）
- ・新聞：5誌（茨城新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、日刊工業新聞）

⑧研究支援活動（令和6年度）

1) ILL利用状況

- ・外部図書館からの貸借複写受付：6件 複写受付：18件
- ・外部図書館への貸借依頼：29件 複写依頼：16件
- ・ILLシステム以外の公立図書館との相互貸借：3件

2) 電子ジャーナル利用

電子ジャーナル名	契約形態
Science Direct (Elsevier 社)	高専コンソーシアム
AIP Publishing (American Institute of Physics)	高専コンソーシアム
APS Physical Review Journals (American Physical Society)	高専コンソーシアム
ScienceOnline (American Association for the Advancement of Science)	高専コンソーシアム
Springer Link (Springer・Nature 社) 高専向けパッケージ	本校個別契約

3) 文献検索データベース利用

データベース名	契約形態
JDreamⅢ (科学技術振興機構)	高専コンソーシアム
MathSciNet (AMS : American Mathematical Society)	高専コンソーシアム
朝日けんさくくん (朝日新聞データベース)	本校個別契約

⑨図書館開館状況、入館者数、貸出冊数 (令和6年度)

\* 正規の時間内開館： 平日の午前8時30分～午後7時

\* 時間外開館 土・日曜開館： 午前10時～午後5時

1) 開館状況(月別開館日数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
正規時間	22	21	20	23	17	19	23	20	20	18	18	20	241
時間外(夜間)	17	21	20	23	5	8	24	20	19	17	4	0	178
時間外(土曜日)	4	3	4	4	1	2	5	4	3	3	1	0	34
時間外(祝・日曜日)	0	1	1	2	0	0	1	2	0	2	0	0	9
合計(正規+土・日)	26	25	25	29	18	21	29	26	23	23	19	20	284

2) 入館者数(入館者カウント装置から算出)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
正規時間	4,202	5,051	3,934	6,054	2,203	2,404	
時間外(夜間)	733	1,265	736	1,380	85	337	
時間外(土曜日)	170	240	257	615	57	196	
時間外(祝・日曜日)	0	138	120	345	0	0	
合計	5,105	6,694	5,047	8,394	2,345	2,937	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
正規時間	4,459	4,386	3,360	4,852	1,814	1,375	44,094
時間外(夜間)	915	916	669	890	93	0	8,019
時間外(土曜日)	373	444	163	400	43	0	2,958
時間外(祝・日曜日)	0	341	0	300	0	0	1,244
合計	5,747	6,087	4,192	6,442	1,950	1,375	56,315

\* 入館者カウント装置から算出

3) 一般利用者入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	5	16	28	20	19	15	14	15	14	9	14	10	179

\* 令和6年度は一般開放を再開した。

4) 利用者区別貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年生	87	45	56	54	42	44	48	44	48	44	19	6	537
2年生	46	29	58	34	91	24	53	65	82	58	43	15	598
3年生	31	23	62	32	64	37	54	51	89	72	46	19	580
4年生	106	95	161	86	71	75	127	107	222	111	162	46	1369
5年生	226	132	131	119	125	64	71	66	73	57	56	8	1128
専攻科	25	14	31	23	15	25	9	28	7	12	23	7	219
教員	26	38	9	8	26	18	10	24	37	18	7	19	240
職員	305	116	283	361	115	180	273	370	289	186	50	22	2550
非常勤講師	0	4	0	7	0	0	0	0	0	3	0	0	14
一般	40	38	41	54	24	50	29	29	23	18	18	25	378
合計	892	534	832	778	573	517	674	784	870	579	424	167	7624

\*I-Liswave-J 利用者区分月別冊数・人数統計から算出

⑪会議等の開催

1) 高等専門学校及び技術科学大学図書館情報交流集会

テ ー マ：公的資金による研究成果のオープンアクセス義務化に向けて

開催日時：令和6年8月19日（月）～8月20日（火）

会 場：一橋講堂 中会議場4（東京都千代田区一ツ橋 学術総合センター2階）

実施後に資料及び動画を配信。

2) 第24回関東信越地区高等専門学校図書館協議会

開催当番校：長岡工業高等専門学校

日 時：令和6年11月12日（火）11:00～12:00

場 所：大会議室（情報交換会 Teams オンライン、研修会 Zoom オンライン）

出席者：安細 勉（学術総合情報センター長）、加藤 文彬（副学術総合情報センター長）

由井 孝雄（学生課図書係長）、関 幸子（図書館司書）

会議内容：各高専からの取組近況報告等の情報交換

研修会（14:00～）：「書誌の作成について」（講師：岡田 智佳子 氏）

3) エルゼビア社転換契約に伴う学術論文投稿に係る説明会の開催について

日 時：令和7年3月18日（火）16:00～16:40

開催形式：オンライン（Microsoft365Teams）

出席者：大澤総務課長補佐（総務担当）、吉住研究協力・地域連携係主任、由井図書係

長

#### 【説明内容】

- エルゼビアの転換契約における APC 料の設定の経緯
- エルゼビアの APC 料設定に関連しての一連の流れと各教員・事務職員・エルゼビア社の役割
- エルゼビアの APC 料の適用となるジャーナル
- エルゼビア提供システムの転換契約枠内適用件数への「0 円」表示について
- エルゼビアのオープンアクセス支援事業(転換契約)の著者手続きについて (重要点)
- エルゼビア出版ジャーナルから、オープンアクセス支援対象ジャーナルを検索

#### (2) 自己評価(改善含む)及び課題

- ① 令和3年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を実施し、閲覧室の座席を通常配置に戻して開館した。一般利用者への開放も再開した。
- ② 時間外開館(19時まで)、土曜日開館、定期試験期間中の日曜開館を実施した。
- ③ 研究支援活動や図書の予約貸出しサービス等を実施するなど、図書館の利用環境を保持できるよう取り組んだ。
- ④ 定期試験期間の1週間前の日曜日も開館した。
- ⑤ ブックハンティングや企画展示を実施し、また、各種コーナーの図書を充実させ、更に利用者が増えるよう、図書館利用者の興味をひく取組を推進していく。
- ⑥ 電子ジャーナルの利用料金が年々値上げされていくなか、年々削減される図書館運営経費から必要経費を捻出し、図書館活動の向上と教育・研究情報サービス機能の強化・推進を図る。
- ⑦ 本校ホームページ内の図書館サイトからの情報発信や図書館利用サービスを提供するため、サイト内の情報を整理して充実させる。
- ⑧ 図書館管理業務を外部委託契約により実施しているが、今後も継続して実施していく。

#### (3) 今後の展開

- ① 令和5年3月28日、第五次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定され、多様な子どもたちの読書機会の確保、デジタル社会に対応した読書環境の整備、子どもの視点に立った読書活動の推進について検討していく。
- ② 新型コロナウイルス感染症の5類移行後においても、図書館における感染防止対策を継続して実施し、図書館利用者の感染予防に努める。
- ③ 令和4年度に高専機構本部の調達(長岡技術科学大学との共同調達)により、第4期統合図書館システムへ更新されたが、システムの不具合が発生しているため、登録図書データのチェックなど注意して行う。

## 9. 情報化推進（学術総合情報センター・情報セキュリティ管理委員会）

### （1）取組実績

情報センター等では、ICT 授業や業務を円滑に行えるような環境整備、PC 等の利用におけるサポート及び情報セキュリティ強化等について、次の活動を行った。

#### ①Google Workspace アカウントの取扱変更

卒業生等へ付与されている Google Workspace アカウント（以下、「アカウント」。）について取扱方針を変更し、卒業／修了後 3 年経過をもってアカウント停止とし、同 5 年経過後にアカウント削除とすることとした。

#### ②ソフトウェアライセンス管理

ソフトウェアのライセンス管理を徹底する事を目的として、全教職員に保有しているソフトウェアの調査を実施し、ソフトウェアライセンス管理台帳を作成した。

#### ③情報セキュリティ教育・訓練

情報セキュリティに対する意識の向上を目的として、全学生及び全教職員対象とした、情報セキュリティ教育を e-Learning で実施し、併せて、誓約書の提出を実施した。

また、教職員対象に、標的型メールの対応訓練を実施した。

#### ④情報セキュリティ管理委員会

##### 第 1 回（メール会議）

日 時： 令和 6 年 6 月 24 日（月）～同 6 月 26 日（水）

議 題：

報告事項

1. サイバーセキュリティにおけるセルフチェックリストの提出について

##### 第 2 回（運営会議との合同会議）

日 時： 令和 6 年 10 月 17 日（水）

議 題：

審議事項

1. 卒業生等に係る Google Workspace アカウントの取扱いについて

### （2）自己評価（改善含む）及び課題

- ① Google Workspace アカウントの取扱変更により、多要素認証未導入アカウント等、アカウント乗っ取りに遭いかねないアカウントを大幅に削減することができ、情報セキュリティ

ィの強化を図ることが出来た。

- ② ソフトウェアライセンス管理台帳を作成し、ライセンス管理の徹底を図ることができた。
- ③ 全教職員及び全学生へ情報セキュリティの誓約書の提出と e-Learning を実施したことにより、情報セキュリティへの意識付け及び注意喚起を図ることが出来た。

### (3) 今後の展開

情報セキュリティへの対策は、年々厳しくなっていることから、現在実施している各施策の充実・強化を図りながら、学内のセキュリティ水準や教職員の意識の向上につなげていく。

## 10. 国際化推進（グローバル教育センター）

### （1）取組実績

国際化推進については、グローバル教育センター会議で立案し、海外学生派遣・受入、筑波大学連携事業、留学生受入及びグローバルエンジニア育成事業などの取り組みについて、着実に実行に移した。

#### ①筑波大学連携事業 Global PBL

令和6年8月19日（金）から8月23日（金）の5日間（土日を除く）、筑波大学大学院の外国人留学生をティーチングアシスタントに夏季集中講義：Global PBLを本校で実施した。今年度のテーマは“Global Problem Based Learning(PBL) Summer Intensive Course 2024 Disaster Prevention and Countermeasures”で、35名の学生が受講した。

#### ②留学生（正課生）の受入

本科3年次に男子4名、女子2名（マレーシア、ラオス、インドネシア）の計6名の留学生を新たに受け入れた。

#### ③タイ留学生受入

令和6年度は、専攻科の機械・制御系コース及び応用化学コースにタイ留学生2期生が1名ずつ入学した。令和6年度末におけるタイ留学生在籍者は12名（本科2年：2名、本科3年：2名、本科4年：2名、本科4年：2名、本科5年：2名（うち休学1名）、専攻科1年：2名、専攻科2年：2名）であった。

令和7年度入学専攻科選抜試験のタイ政府奨学金留学生特別推薦選抜に本科5年生1名が出願し、合格した。令和7年度に専攻科へ本科5年の1名が進学する。

#### ④本校留学生の活動支援

留学生の健康管理のため成人病検診（血液検査）、インフルエンザ予防接種、麻疹抗体検査を実施した。麻疹抗体検査の結果、抗体値の低い留学生に対しては予防接種を促した。

また、留学生卒業旅行を実施した。令和7年2月8日（土）、参加人数は20名であり、行先はチームラボ・プラネッツ（豊洲）であった。夏季休業中と冬季休業中におけるホームビジット（男子留学生2名参加）や勝田ロータリークラブ主催の食事会など、地域との交流を行った。

⑤ひたちなか市国際交流協会との連携

鈴木秋弘校長がひたちなか市国際交流協会の副会長を務めた。加藤グローバル教育センター長および同センター関係教員が理事会へ出席し、地域と本校との国際分野での連携を深めた。令和6年度も前年度同様、多文化交流グループ主催の「こくさいちゃんカフェ」等のイベントへ本校留学生が参加した他、朝鮮理工大学の学生を受け入れた際には、かけはしグループ、国際交流ひろばグループとの交流や、日本文化体験活動の実施など多方面にわたった連携を展開することができた。

⑥トビタテ留学 JAPAN

第9期派遣留学生として3名が採用され、アメリカ、オーストラリア、カナダに留学した。

⑦グローバルエンジニア育成事業

令和6年度も「持続可能で多様なグローバル社会づくりに貢献できるエンジニア育成」事業が、高専機構本部のグローバルエンジニア育成事業として採択された。この事業は、持続可能なグローバル社会をけん引する人材として、英語でのコミュニケーションスキルに加えて、認知能力、社会性、課題発見・解決能力を備えた学生の育成を目指すものである。

令和6年度事業の取組概要は以下のとおり。

番号	実施項目	概要
1	地域と連携したオンキャンパス活動	<p>新入生（留学生）歓迎会実施（4月）： 留学生が主体となって実施するイスラム教の断食明けの祝祭(Iftar)と合わせて、新入生歓迎交流会を実施した。本校の日本人学生に加え、地域の方も招くなど（総勢約80名）相互の文化交流を行うことができた。</p> <p>地域自治体との共同プログラムの実施（8月、10月、11月）： 1）地元小学生とアフリカンドラム製作・演奏するプログラム 2）国際交流文化祭における発表および交流活動 3）在住外国人を対象とした防災学習プログラム</p>
2	本校のグローバルカリキュラムにおける各種授業と関連の取り組み	<p>グローバル科目（グローバルPBL）： 筑波大学大学院の留学生をTAとして招き、防災をテーマにPBLアクティビティ型の授業を実施した（実施時期：9月、1週間）。グローバル副専攻学</p>

		<p>生 35 名と T A 学生によるグループ学習や施設見学等を行い、テーマに関する理解および見聞を深めた。</p> <p>グローバル科目（グローバルサイエンス）：</p> <p>1）本校で受け入れた留学生（フランスからの短期留学生、4ヶ月滞在）を授業に参加させ、授業における課題活動において、日本人学生とのグループ活動を行った。</p> <p>2）茨城県の国際交流協会からフランス人の職員を招き、日本での生活における文化やライフスタイルの違いや、そこからの学び、海外からの方との接し方について学んだ（英語）。</p> <p>3）タイの T J S S F 参加に向けてテーマ内容を課題として、内容の準備からプレゼンの練習など活動を行った。</p>
3	各タイプ別海外派遣プログラム	<p>英語研修（+ボランティア活動）：</p> <p>本校学生 15 名をフィリピンのセブ島に派遣し、2週間の英語研修を行った。あわせて、現地のゴミ山周辺に生活する地元住民を訪ね交流した。生活の様子を知ることにより、社会・環境問題や求められていることなどについて学んだ。</p> <p>海外インターンシップ（韓国、フランス）：</p> <p>本校と交流協定を結んでいる大学に学生を派遣した。</p> <p>韓国：（朝鮮理工大、派遣学生 5 名、9 月派遣、18 日間）。</p> <p>フランス：（ルーアン応用科学大学、派遣学生 3 名、3 月派遣、18 日間、※PCSHS 留学生 1 名参加）。</p> <p>いずれも現地での大学の授業、専門科目学習、語学・文化学習、関連施設視察、学生交流を行った。</p> <p>フィールドスタディ（インドネシア、シンガポール、マレーシア）：</p> <p>本校と交流協定を結んでいる大学／ポリテクニクに学生を派遣した。</p> <p>インドネシア：（ガジャマダ大、派遣学生 6 名、</p>

		<p>9月派遣、18日間)。  シンガポール：(シンガポールポリテクニク、派遣学生6名、3月派遣、18日間)。  マレーシア：(マレーシア工科大、派遣学生9名、3月派遣、18日間)。  いずれも現地機関での授業、フィールド活動、語学・文化学習、関連施設視察、学生交流を行った。  海外プロジェクト参加：  トビタテ(米国：3月派遣、3週間、カナダ：3月派遣、3週間、オーストラリア：3月派遣、3週間、各1名)。  アントレプレナーシップ研修参加(フィンランド：3月派遣、1週間、フィンランド、※PCSHS 留学生1名参加)</p>
4	本校に海外から学生を招いて実施した各種プログラム	<p>ルーアン応用科学大学からの学生受け入れ：  (6名、期間：5月から4ヶ月、本校での研究テーマに基づいたインターンシップ、および学生交流、文化体験 を実施)  留学生対象の日本語研修(サマーキャンプ)：  (24名、期間：8/23~25、本校を拠点に第1ブロック、第2ブロック、第3ブロックの留学生を招き、科学技術を学ぶ日本語研修を実施)  朝鮮理工大からの学生受け入れ：  (10名、期間：1月から3週間、本校での日本語学習をはじめ、学生交流、文化体験、現地視察 を実施)  グローバルキャンプ：  (15名(タイ9、シンガポール6)、期間：3月から1週間、海洋汚染をテーマにアクティビティ、関連施設視察、学生交流、文化体験 を実施)</p>

## ⑧グローバル教育センター会議

### 1) 第1回

開催日：令和6年10月10日（木）

議 題：1. グローバル教育センター規則の改正について

### 2) 第2回

開催日：令和7年1月10日（金）

議 題：1. マレーシア工科大学とのLOC締結（案）に向けて

### 2) 第3回（メール審議）

開催日：令和7年1月21日（火）

議 題：1. マレーシア工科大学とのLOC締結（案）に向けて

## (2) 自己評価（改善含む）および課題

### ①筑波大学連携事業 Global PBL

この講義では、高専生と筑波大学の外国人留学生TAがグループを作って実践的な課題に挑戦した。高専生は苦勞しながらも英語でのディスカッションやプレゼンテーションに挑戦することで、英語や発表スキルの向上を実感した。質疑・議論も普段より活発に行われ、各グループがユニークな解決策を提案し、全体として学びの深さと楽しさを感じる貴重な経験となった。アンケート（有効回答数29）では、講義に対する満足度(0～5)は平均4.7と高く、29人中27名が「英語学習へのモチベーションが向上した」と答えた。また、防災に関する知識を深めるため訪れた地質標本館および防災科学研究所は非常に評判が良かったので、来年度もテーマに沿った見学を取り入れたい。今後の課題は、本講義が5日間という短期間であるため、可能な限り早く留学生と高専生を交流させ、早い段階でグループディスカッションに積極的に参加できるよう促すことで、いかに活発な議論を展開させることができるかである。

### ②留学生（正課生）の受入

受入れの初期においては、日本語が不慣れで学習面でのサポートが必要であったり、食事等の習慣が合わず気持ちが沈んでしまう留学生も見受けられる。留学生に関わる関係教職員の注意深い見守りと支援が重要であるため、次年度もより関係各位の連携を密にしていく。

### ③タイ留学生受入

これまでに実施した学習・生活支援に係るノウハウや情報を集め、受入れている学生及び今後受け入れる学生に対して、より良いサポートが図れるように関係者と情報を共有す

る。

④本校留学生の活動支援

今後も留学生が日本文化等を体験できる機会を積極的に設けていきたい。

⑤ひたちなか市国際交流協会との連携

次年度以降も連携を続け、更なる関係の強化を図っていく。

⑥トビタテ留学 JAPAN

次年度以降も適切に学生へ情報提供を行い、指導・支援をしていく。

⑦グローバルエンジニア育成事業

令和7年度のオンキャンパス活動では、グローバルキャンプの第2回目とタイ高専からの1か月受け入れ研修が予定されており、これらのプログラムが円滑に進むよう、準備を進めていく。

現在実施している海外研修については、研修計画やコンテンツの充実を維持することに加え、リスクマネジメントや現地での安全対策、危機回避対策にも力を入れていく。

第2ブロック拠点校として、近隣および他ブロックの高専とも連携を取りながら、留学生のケア・サポートに注力していきたいと考えており、これには、日本人学生との交流を深めることも含まれる。

課題として、広報活動の不足を実感している。ターゲットオーディエンスへの情報伝達を強化し、イベントやプロジェクトの認知度を高めていきたい。

(3) 今後の展開

令和7年度には、これまで行ってきた協定校からの学生受け入れに加え、グローバルキャンプやタイ高専からの1か月受け入れ研修等、オンキャンパスでの業務に注力する必要があります。海外への学生送り出しと同等かそれ以上に、オンキャンパスおよび第2ブロック内を考慮したプログラムの準備や実施にしっかり取り組んでいきます。

## 11. ダイバーシティ推進（ダイバーシティ推進センター）

### （1）取組実績

教育活動全般を通じたダイバーシティの推進、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を図るための環境整備、ダイバーシティの意識啓発などを目的とし、ダイバーシティ推進センター運営委員会で立案の上、次の活動を行った。

#### ①盗撮機器等調査の実施

ダイバーシティ推進センター運営委員会委員が男子トイレ、女子トイレ、多目的トイレ、男子更衣室及び女子更衣室の盗撮機器等の有無を目視にて調査し、盗聴器等の不審物が無いことを確認した。

#### ②第2学年対象ジェンダー講演会の実施

LGBT やジェンダーに関する考え方について見識を深めることを目的として、次のとおり講演会を開催した。

- ・ 開催日：令和6年12月18日（水）
- ・ 対象者：第2学年学生
- ・ 講師：にじっぺ茨城 代表 永瀬 大紀氏

#### ③教職員対象アンガーマネジメント研修の実施

多様な構成員が協働して学校運営に参画できる職場環境の実現を目的として、ハラスメント防止啓蒙委員会及び自己点検・評価委員会との共催で次のとおり研修会を開催した。

- ・ 開催日： 令和6年7月31日（水）
- ・ 対象者： 全教職員
- ・ 講師： コミュニケーションオフィス kinds 海津 佳寿美 氏

#### ④設備整備

図書館棟1階の多目的トイレ及び8号館1階の多目的トイレにフィッティングボードを設置した。

#### ⑤ダイバーシティ推進センター運営委員会

##### 1) 第1回

開催日：令和6年6月19日（水）～令和6年6月24日（月）

##### 議題

##### 報告事項

1. 令和5年度活動報告について
2. 令和5年度第2学年対象ジェンダー講演会アンケート報告書について

審議事項

1. 令和6年度活動計画について
2. アンガーマネジメント研修の開催について

2) 第2回

開催日：令和6年8月1日（木）～令和6年8月6日（火）

議題

審議事項

1. 令和6年度盗撮機器等調査の実施について

3) 第3回

開催日：令和6年9月6日（金）～令和6年9月12日（木）

議題

審議事項

1. 令和6年度盗撮機器等調査の実施について

報告事項

1. FD研修「アンガーマネジメント研修」実施報告について

4) 第4回

開催日：令和6年10月9日（水）～令和6年10月15日（火）

議題

審議事項

1. ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I) 目標及び取組状況調査について

**(2) 自己評価（改善含む）及び課題**

- ① 盗撮機器等調査の実施について、女子トイレ、女子更衣室に加えて、男子トイレ、男子更衣室、多目的トイレも調査の対象とした。学生、教職員の不安解消、不審者及び不審物設置防止を目的とし、次年度も引き続き調査を行う。
- ② 学生向け講演会について、事後に実施したアンケートでは回答者の8割以上が「性の多様性についての理解が深まりましたか」との質問に、「とても深まった」「ある程度深まった」と回答しており、学生の意識向上が伺える結果となった。
- ③ 教職員向け研修について、事後に実施したアンケートでは回答者の9割以上が「非常に有意義だった」「有意義だった」と回答しており、他者を理解しようとする意識の醸成に資する研

修となった。

- ④ 設備整備について、多目的トイレにフィッティングボードを設置することで、性別を問わず着替えができる場所を提供することができた。

### (3) 今後の展開

高専機構のダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I) 宣言及びダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I) 行動計画に基づき、引き続き学内のダイバーシティを推進していく。

なお、令和7年度には、DE&I 行動計画の重点項目である「高専における女子学生比率の向上」のための取組として、入試係と協力し女子中学生向けイベントを実施することを予定している。

## 12. 地域連携・研究活動（副校長（地域連携）、地域連携センター）

### （1）取組実績

地域連携・研究活動については、研究活動の活性化と、社会・地域との交流を促進するシステムづくりに努め、茨城高専から情報を発信し、教育研究上の成果を社会・地域に積極的に還元する取組を行い社会貢献することを目的として、副校長（地域連携）並びに地域連携センターにおいて立案し、次の活動を行った。

#### 【副校長（地域連携）】

##### ①PRIME 企業会（連携企業会）

###### 1) PRIME 企業会（連携企業会）の発足

産業技術の振興と地域社会の発展を目指し、企業と本校の橋渡し役となり相互連携を強化することを目的としPRIME 企業会（連携企業会）が発足された。

2月10日現在17の企業等が承認され会員となっている。

##### ②茨城高専地域協働サポートセンター（以下「サポートセンター」と記載）関係

###### 1) 卒業生の就職相談関係

令和6年度は茨城高専HPに掲載している卒業生就職相談窓口を通しての就職相談はなかった。就職相談依頼からの流れは、

- （1）本校HPの卒業生就職相談窓口を見て本校へ申込
- （2）神野河准教授と相談依頼者とのヒアリング日程調整
- （3）ヒアリングの実施（都合が合えば相談依頼者の担任や卒業研究担当教員も同席）
- （4）相談依頼者の就職に対する思いを考慮した上で該当する企業をアドバイス。

##### ③茨城高専アソビサイエンス

###### 1) 茨城高専アソビサイエンスの実施

本校学生がメディアデザインラボ等で取り組んだ地域課題解決の成果を披露する場として茨城高専アソビサイエンスを9月7、8日につくば市のイーアスつくばで、3月20、21日に日立市のヒタチエで実施した。

イベントを通して茨城高専で学ぶ勉強が社会に役立つことを実感する場面をつくることで学生のモチベーションを高める効果を期待するとともに、低年齢層をターゲットに、ものづくりやプログラミング教室のように体験できる参加型のコンテンツも用意することで将来の入学者増を期待したい。

【地域連携センター】

① 茨城高専知財委員会による審査

年金納付：3件、実施契約：1件を実施した。詳細は下記のとおり。

区分	名称	担当教員	審査結果
年金納付	結晶化分析装置及び結晶化分析方法 ※高専機構単独	G部 若松教授	承認
年金納付	熱電変換素子出力制御装置 ※企業との共同出願した権利	E系 関口教授	承認
年金納付	熱電変換素子出力制御装置 ※企業との共同出願した権利	E系 関口教授	承認
実施契約	チタン系材料 ※企業との共同出願	M系 安藤亮助教	承認

②研究成果の外部公表

1)学内からの発信

研究彙報（第59号）（L部 大武講師、L部 大津准教授、G部 浜元特命准教授、I系 蓬萊教授）を作成し、茨城高専ホームページに掲載して外部へ公表する。また、茨城高専シーズ集及びリーフレットを作成し、PDF版を茨城高専ホームページに掲載している。

※茨城高専 HP 掲載場所 HOME／施設センター紹介／茨城高専地域共同テクノセンター

③ひたちなか市との包括連携協定関係

1)なかネットワークシステム(NNS)関係

今年度より2年間の休会となっている。

2)市民大学の開講

開催せず。

3)青少年のための科学の祭典ひたちなか大会

11月2日、3日にひたちなか市総合運動公園総合体育館にて開催され、茨城高専から下記2件を出展した。

1. ドローンシミュレータ
2. お絵描き水族館

4)学童クラブ育成支援充実事業

学童クラブ育成支援充実事業として、ひたちなか市と委託契約を締結。放課後に学校の理科室を利用し、茨城高専の教員（C系 小林准教授を中心に、L部 原教授、G部 奥出教授、G部 二田助教、M系 長谷川准教授、M系 小野寺准教授、M系 村上准教授、E系 服部助教、C系 佐藤(稔)教授、C系 山川助教、伊吹技術職員）と学生が講師となって、

田彦小学校・中根小学校・前渡小学校の児童を対象に理科の実験を中心とした体験活動を行い、児童たちの学習に対する意欲・関心を高める活動を下記の日程で行った。

回	開催月	内 容	開催場所
1	7月	理科実験	田彦小学校
2	8月	プログラミング教室等	中根小学校
3	9月	理科実験	田彦小学校
4	10月	理科実験	田彦小学校
5	11月	理科実験	田彦小学校
6	12月	理科実験	田彦小学校
7	2月	プログラミング教室等	前渡小学校

#### 5)環境シンポジウム 2025

2月8日に、ひたちなか市が主催による「環境シンポジウム 2025」がしあわせプラザ（那珂湊総合福祉センター）にて開催され、以下のテーマを学生が発表した。

1. ほしいも残渣堆肥の悪臭を抑制する生分解性材料の開発

#### ④大洗町教育委員会との連携

令和2年度より必修化された小学校プログラミング教育の教材を、大洗町教育委員会とともに開発し支援することを目的とした「小学校プログラミング教育教材製作プロジェクト」を継続して実施した。

#### ⑤科学研究費助成事業講習会の開催

科研費の応募の活性化および採択件数の増加を目的とし、鶴岡高専の上条利夫教授、本校の平本留理准教授・澤井光准教授を講師として、7月18日の本校第階会議室で開催された。

#### ⑥研究推進委員会の開催

令和6年度は5回実施した。開催日時と議題は下記のとおり。

- 1)第1回：令和6年7月30日（火）

##### 議題【審議事項】

1. 令和6年度研究推進委員会について
2. 特許権の年金納付について（審議内容：年金納付の可・否）
3. 特許権の年金納付について（審議内容：年金納付の可・否）

- 2)第2回：令和6年9月27日（金）

##### 議題【審議事項】

1. 特許権の年金納付について（審議内容：年金納付の可否）
2. ネーミングライツ事業に関する規則の制定について

3) 第3回：令和6年10月7日（月）メール審議（10月10日（木）期限）

議題【審議事項】

1. ネーミングライツ事業に関する規則について（審議内容：規則案の修正）

4) 第4回：令和6年12月18日（水）メール審議（12月24日（火）期限）

議題【審議事項】

1. 茨城大学、本校及び福島高専との設備の相互利用に関する覚書の締結について  
2. 茨城工業高等専門学校機器利用規則の改正について

5) 第5回：令和7年2月13日（木）

議題【審議事項】

1. 本校の研究推進及び産学官連携に係る規則の制定及び廃止について

【研究協力・地域連携係関係】

①国内の大学等との連携協定に係る事業

1) 筑波大学との連携協定に基づく活動

筑波大学との連携協定に基づき「グローバル工学基礎（PBL 演習）」へ大学院留学生（システム情報工学研究群（科）6人）をティーチングアシスタント(TA)として受け入れ、本校授業の教育指導等を行うことで交流を図った。

② 外部資金の受入

令和6年度外部資金受入一覧（件数と受入金額）

資金種別	受入件数	受入金額（円）	備考
共同研究	14件	5,960,000円	茨城高専に入金がないものは含まない。
受託研究	0件	0円	
受託事業	2件	892,000円	ひたちなか市放課後子ども教室 ほしいも加工残渣実証試験
補助金	1件	585,000円	JKA補助事業
研究助成金	0件	0円	
寄附金	21件	17,026,611円	教育研究基金8件を含む。
受託試験料	0件	0円	
技術相談料	0件	0円	
科研費	16件	直接7,000,000円 間接2,100,000円	補助金0件、基金13件、分担金 3件

③researchmapへの登録

教員に対してresearchmapへの登録を依頼し全教員の登録を確認した。

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 本校学生がメディアデザインラボ等で取り組んだ地域課題解決の成果を披露する場として茨城高専アソビサイエンスを実施した。
- ② 今年度、ひたちなか市との連携事業として学童クラブ育成支援充実事業が実施され、ひたちなか市や参加者から高評価をいただいている。来年度以降も継続していくことで、地元におけるプレゼンスの向上につなげていく。
- ③ 小学校プログラミング教育を大洗町との協力事業で行った。この取り組みについては高専機構も推進しており、今後、この事業を拡充していくための体制整備が必要である。

## (3) 今後の展開

教育・研究は、それ自体が長期的観点からの社会貢献であるが、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献が求められており、こうした社会貢献について茨城高専が社会・地域に還元すること・できることを考え、地域の活性化に繋げていく。

昨今の社会や経済的環境の変化に対応するために、これからの高専には地域産業への貢献や地域創生の機能を取り込むことが期待されている。これまで果たしてきた人材育成中心の役割に加えて、地域産業や自治体との高度な連携が必要になる。ひたちなか市をはじめとする地元自治体や地元企業との連携を強化していくことによって、地域社会のDX及びSDGsに高専が貢献し、その活動を通して、高専学生の教育においても効果を上げていくことが期待できる。

### 1 3. 教育組織(教員任用審査会)

#### (1) 取組実績

##### ① 採用

令和7年4月1日付けで、後任補充として、一般教養部に准教授1人及び助教2人、電気・電子系に教授及び助教各1人を採用した。

##### ② 昇任

系・部から推薦のあった候補者12人に対し審査を実施し、令和7年4月1日付けで助教4名及び講師3名が准教授へ、准教授5名が教授へ昇任した。

##### ③ 再雇用

令和7年度再雇用を希望する教員4人に対し、所属系長等から提出された再雇用計画の審査を行い、同人らの再雇用を承認した。

##### ④ 特命教員

令和7年4月1日付けで以下のとおり実施した。

電気・電子系に特命准教授1名を採用した。

タイ留学生の受け入れに係る事業に携わる者として、専門共通教育部に特命准教授1人(日本語)を採用した。また、同業務に携わっていた特命助教1人(自然科学)について、契約更新を行った。

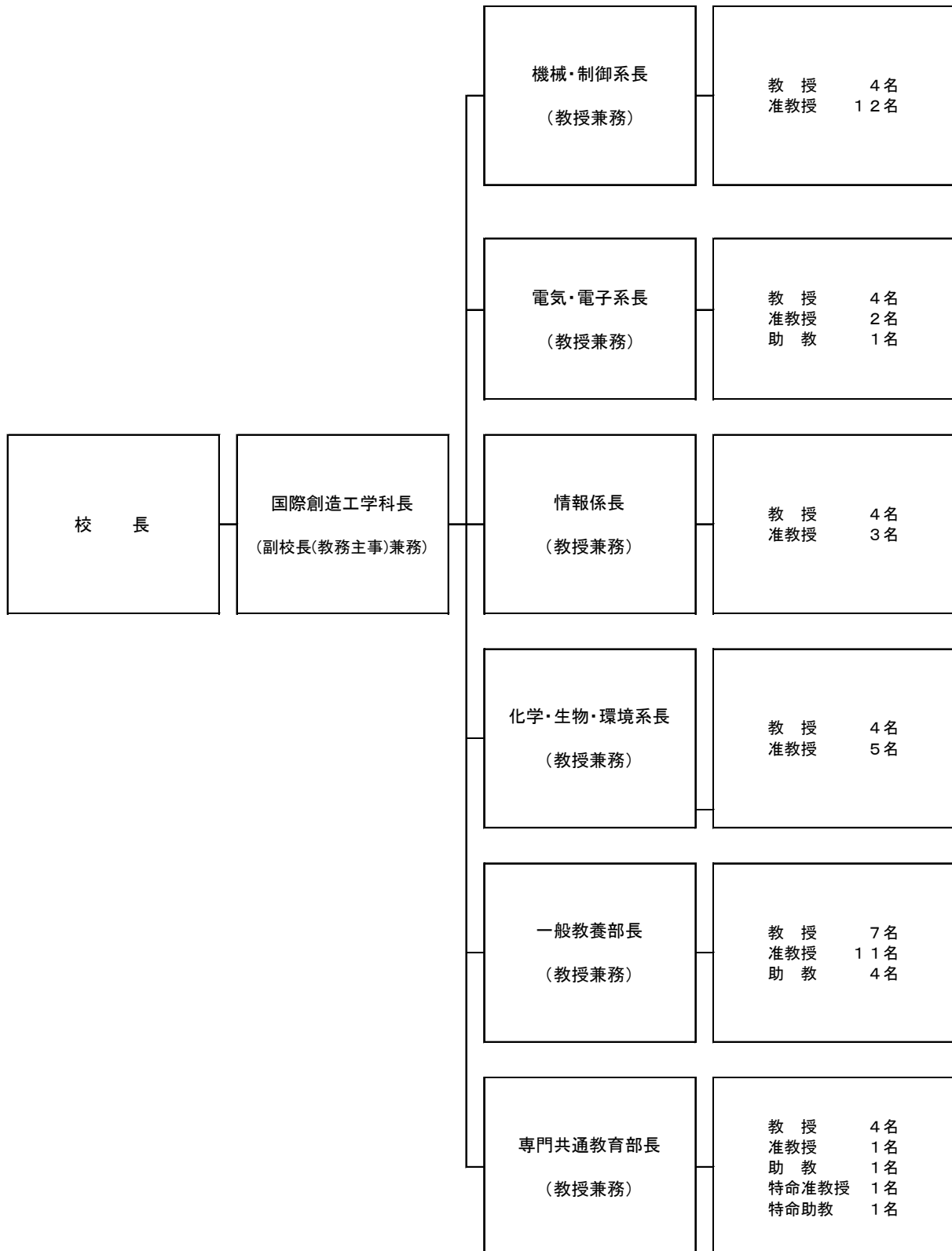
##### ⑤ 非常勤講師

令和6年度非常勤講師として、43人を雇用した。

各系等から推薦のあった令和7年度非常勤講師候補者について審査を行い、令和7年度は41人の非常勤講師について、契約更新又は採用することを承認した。

## 教育職員 配置図

令和7年4月1日現在



## 14. 教育支援組織(事務部)

### (1) 取組実績

#### ① 採用

令和6年11月1日付けで、欠員補充として、学生課長が着任した。

令和7年1月1日付けで、休業代替職員として、学生課教務係に係員1人を採用した。

令和7年4月1日付けで、欠員補充として、以下のとおり実施した。

総務課人事・労務係に係員1人を採用した。

学生課に看護師1人を採用した。

#### ② 配置換・課内異動・兼務

令和6年9月1日付けで、以下のとおり実施した。

総務課課長補佐(財務担当)を学生課課長補佐(学生担当)に配置換した。

総務課用度係長を学生課教務係長に配置換した。

学生課教務係教務主任を総務課研究協力・地域連携係研究協力・地域連携主任に配置換した。

学生課学生支援・寮務係員を総務課総務係に配置換した。

総務課総務係員を総務課財務係に課内異動した。

総務課課長補佐(総務担当)が総務課研究協力・地域連携係長を兼務した。

総務課課長補佐(財務担当)が総務課用度係長を兼務した。

学生課課長補佐(教務担当)が学生課図書・情報係長を兼務した。

学生課課長補佐(学生担当)が学生課入試係長を兼務した。

令和6年10月1日付けで、福島高専から係長1人が総務課用度係に配置換となった。

令和7年4月1日付けで、総務課人事・労務係人事・労務主任1人を総務課用度係用度主任に配置換した。

#### ③ 昇任

令和6年9月1日付けで、以下のとおり実施した。

総務課研究協力・地域連携係長を総務課課長補佐(財務担当)に昇任させた。

学生課教務係長を学生課課長補佐(教務担当)に昇任させた。

学生課教務係員を学生課教務係教務主任に昇任させた。

総務課財務係員を学生課学生支援・寮務係学生支援・寮務主任に昇任させた。

令和7年4月1日付けで、以下のとおり実施した。

総務課人事・労務係員を総務課人事・労務係人事・労務主任に昇任させた。  
総務課財務係員を総務課財務係財務主任に昇任させた。

④ 再雇用

令和7年4月1日付けで、以下のとおり実施した。

学生課学生支援・寮務係（看護師）に1人を再雇用した。

教務係の再雇用職員1人の再雇用契約を更新した。

キャリア支援室の再雇用職員1人を教務係として再雇用契約を更新した。

⑤ 有期雇用

令和7年4月1日付けで、学生課学生支援・寮務係に事務補佐員1人を採用した。

⑥ 非常勤

令和6年4月15日付けで、後任補充として学生寮指導員1人を採用した。

令和6年6月10日付けで、事務補佐員1人を採用した。

令和6年9月1日付けで、後任補充として学生課学生支援・寮務係に事務補佐員1人を採用した。

令和7年4月1日付けで、以下のとおり実施した。

事務補佐員1人を採用した。

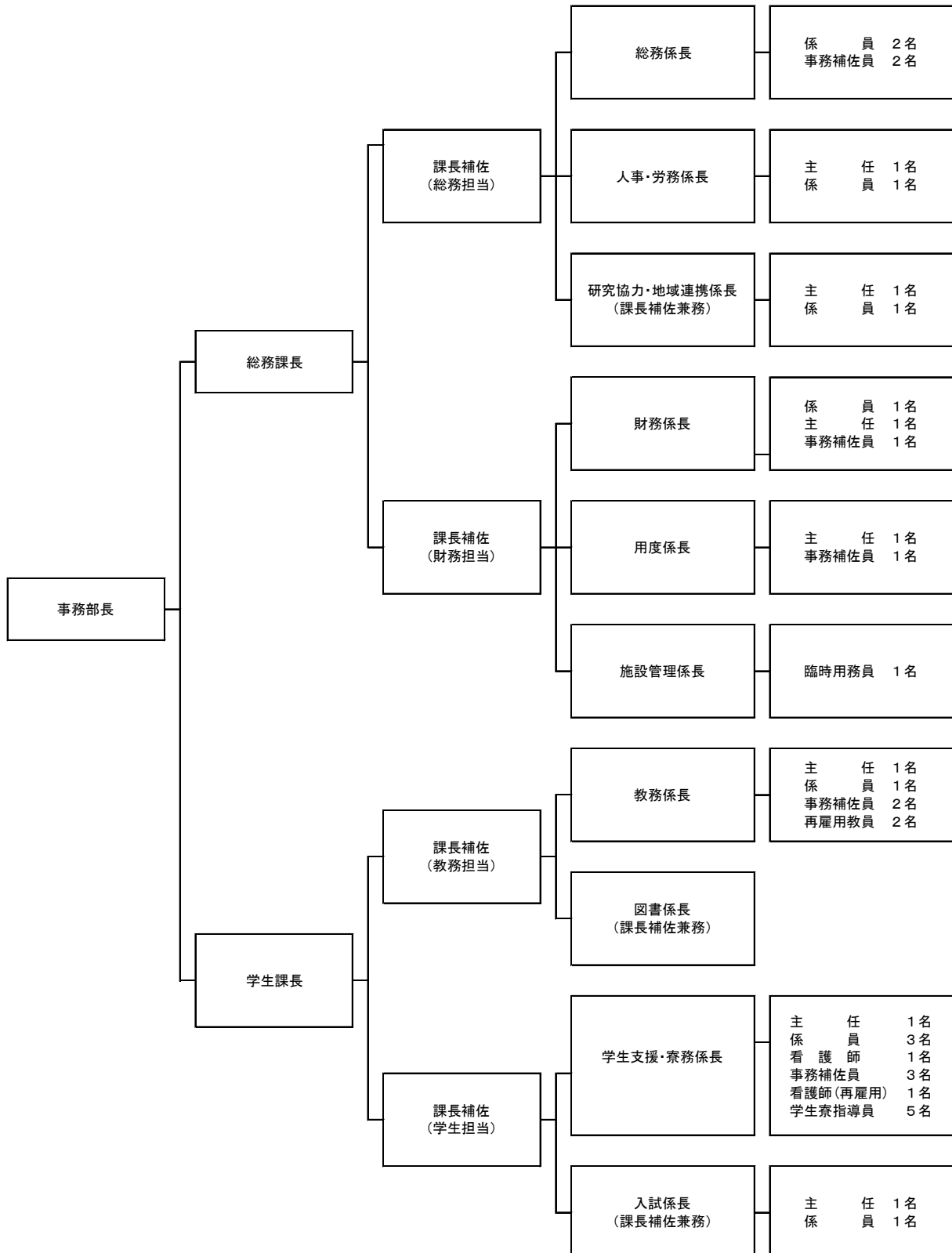
後任補充として、事務補佐員1人を採用した。

後任補充として、臨時用務員1人を採用した。

非常勤職員13人（事務補佐員5人、カウンセラー2人、スクールソーシャルワーカー1人、学生寮指導員5人）の契約を更新した。

## 事務職員 配置図

令和7年4月1日現在



## (2) 研修への参加状況

名 称 : 令和6年度独立行政法人国立高等専門学校機構新任校長・新任事務部長研修会

主 催 : 独立行政法人国立高等専門学校機構

日 程 : 令和6年4月24日(水)

参加人数: 1名

実施方法: 対面

名 称 : 令和6年度独立行政法人国立高等専門学校機構初任職員研修会

主 催 : 独立行政法人国立高等専門学校機構

日 程 : 令和6年5月13日(月)～令和6年5月15日(水)

参加人数: 2名

実施方法: 対面

名 称 : 令和6年度学務担当者向けオンデマンド研修(第1回～第3回)

主 催 : 独立行政法人国立高等専門学校機構

日 程 : 令和6年5月～令和7年3月

参加人数: のべ4名

実施方法: オンデマンド

名 称 : 2024年度国立高等専門学校機構グローバルSD研修

主 催 : 独立行政法人国立高等専門学校機構

日 程 : 令和6年6月～令和7年3月

参加人数: 1名

実施方法: オンライン、OJT

名 称 : 公文書管理研修Ⅰ(独法等向け第1回)

主 催 : 独立行政法人国立公文書館

日 程 : 令和6年5月22日(水)

参加人数: 1名

実施方法: オンライン

名 称 : 公文書管理研修Ⅱ(第1回)

主 催 : 独立行政法人国立公文書館

日 程 : 令和6年6月25日(火)～令和6年6月26日(水)

参加人数: 1名

実施方法: オンライン

名 称 : アンガーマネジメント研修  
主 催 : 茨城工業高等専門学校  
日 程 : 令和6年7月31日(水)  
参加人数: 12名  
実施方法: 対面

名 称 : 令和6年度東京地区及び関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修  
主 催 : 一般社団法人国立大学協会東京地区支部及び関東・甲信越地区支部  
日 程 : 令和6年9月19日(木)～令和6年9月20日(金)  
参加人数: 1名  
実施方法: オンライン

名 称 : 令和6年度東京地区及び関東・甲信越地区実践セミナー(財務の部)  
主 催 : 一般社団法人国立大学協会東京地区支部及び関東・甲信越地区支部  
日 程 : 令和6年10月17日(木)  
参加人数: 1名  
実施方法: オンライン

名 称 : 英語研修(機構語学研修制度)  
主 催 : 茨城工業高等専門学校  
日 程 : 令和6年11月13日(水)～令和7年3月25日(火)  
参加人数: 3名  
実施方法: オンライン

名 称 : 令和6年度国立大学法人等施設担当職員研修交流会  
主 催 : 茨城大学  
日 程 : 令和6年11月15日(金)  
参加人数: 1名  
実施方法: 対面

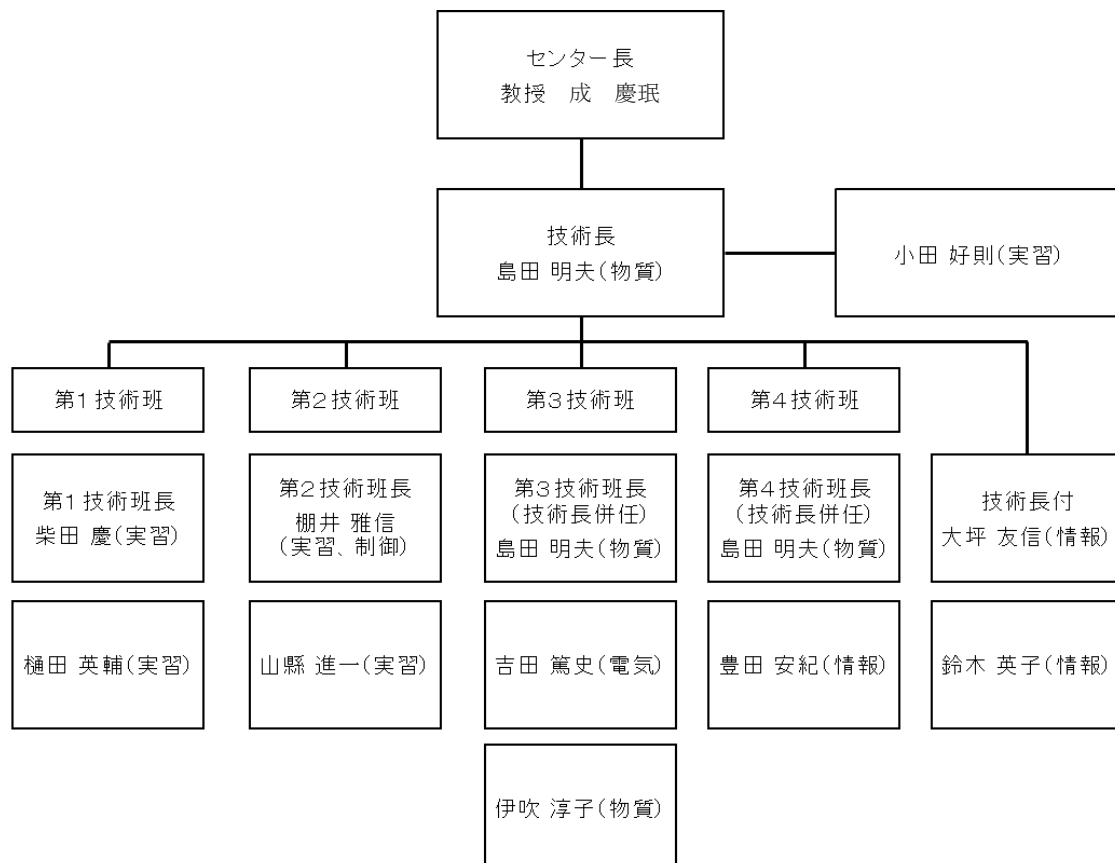
名 称 : 令和6年度東京地区及び関東・甲信越地区実践セミナー  
(人事・労務・安全管理の部)  
主 催 : 一般社団法人国立大学協会東京地区支部及び関東・甲信越地区支部  
日 程 : 令和6年12月5日(木)  
参加人数: 1名  
実施方法: オンライン

## 15. 教育支援組織（技術教育支援センター）

### 1) 設立の目的（茨城工業高等専門学校技術教育支援センター規則 第2条）

センターにおいては、本校の教育・研究支援に関する業務の円滑な運営及び管理運営等への技術支援体制の充実を図るとともに、本校技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校の教育・研究に資することを目的とする。

### 2) 組織



技術教育支援センター組織構成図（令和6年4月1日現在）

### 3) 職務内容

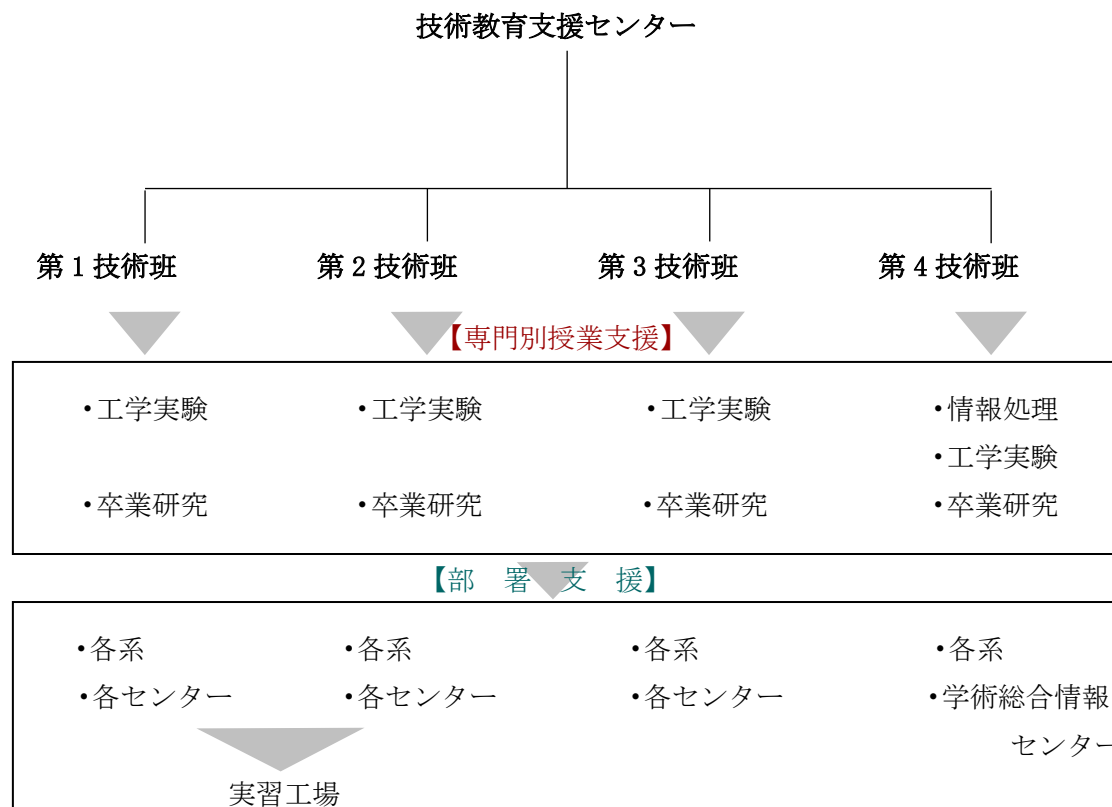
#### ①技術教育支援センターとしての全般的業務

#### ②各班の業務

イ. 担当と関連する業務の依頼、相談等の窓口

ロ. 研修会、公開講座等の企画、実施

③職務遂行部署（個人の活動部署）



## 2. 活動報告

### 1) 授業等への支援

令和6年度授業等への支援について、各系・部署の要請に沿って実験、実習、演習、授業などの支援を行った。年度開始前に各系・部署からの支援要請を受け取り、調整を行った後に技術教育支援センター技術職員週間スケジュール表の作成を行った。その後、運営会議にて了承を受けた後に上記スケジュールに沿って支援業務を行った。

### 2) 製作, 作業支援

令和6年度製作等への支援について、各系・部署の要請に沿って卒業研究（本科）、特別研究（専攻科）及び教員研究に伴う製作などの支援を行った。また、部活動に対してはロボット部における高専ロボコン支援として練習フィールドの製作を行った。

### 3. 講習会等の開催報告

技術教育支援センターでは支援業務の一環として部活・同好会の学生を対象に基本機械操作講習会を定期的で開催している。本講習では主に切削加工に用いる汎用機に関して、基礎的な知識・操作を学ぶ。本年度はロボット部1年生を対象に、6月に開催した。

名 称：基本機械操作講習会

実施期間：令和6年5月10日（金）、13日（月）、20日（月）、6月4日（火）

実施方法：対面方式での講習

講習会場：実習工場

対 象：ロボット部25名 1年生21名 2年生3名 3年生1名

講習内容：1. ケガキの使い方、ポンチの打ち方、ボール盤の使用法

2. バンドソーの使用法

3. 小型フライス盤の使用法

4. ヤスリの使用法

指導者：実習工場技術職員（棚井・山縣・柴田・樋田）

#### 4. 研修会・講習会・学会等の参加報告

令和5年度中に種々の講習会が開催された。情報共有やスキル向上などを目的として本センター職員が参加したものを以下に記す。

名 称：東日本地域高等専門学校 技術職員特別研修会（機械系）

主 催：独立行政法人国立高等専門学校機構（開催校：長岡工業高等専門学校）

日 程：令和6年8月28日（水）～30日（金）

出席者：山縣

実施方法：Microsoft Teams を使用したオンライン研修

名 称：令和6年度関東信越地区国立高等専門学校技術職員研修会

主 催：関東信越地区国立高等専門学校

日 程：令和6年9月2日（月）～4日（水）

場 所：小山工業高等専門学校

出席者：鈴木英子

実施方法：対面

名 称：関東信越地区高等専門学校情報処理教育研究委員会

主 催：木更津工業高等専門学校

日 程：令和6年12月18日（水）

場 所：オンライン

出席者：情報システム等の運用管理に携わる教職員

（学術総合情報センター長、総務係、豊田）

実施方法：Teams によるテレビ会議

名 称 : 保護具着用管理責任者教育  
主 催 : 茨城労働基準協会連合会  
日 程 : 令和7年1月16日(木)  
場 所 : 茨城労働基準協会連合会 中央安全衛生教育センター  
出席者 : 山縣  
実施方法 : 対面

名 称 : 令和6年度 IT 人材育成研修会  
主 催 : 独立行政法人国立高等専門学校機構本部  
日 程 : 令和7年 1月30日(木) ~ 31日(金)  
場 所 : 東京都新宿区高田馬場1-29-9 TDビル3F ワイム貸会議室 高田馬場  
出席者 : 情報システム等の運用管理に携わる教職員(豊田)  
実施方法 : 研修会場での集合研修

名 称 : 第16回高専技術教育研究発表会 in 木更津  
主 催 : 木更津工業高等専門学校  
日 程 : 令和7年3月3日(月) ~ 4日(火)  
場 所 : 木更津工業高等専門学校  
出席者 : 山縣  
実施方法 : 対面

名 称 : 化学物質のリスクアセスメント研修  
主 催 : 中央労働災害防止協会 東北安全衛生サービスセンター  
日 程 : 令和7年3月6日(木)  
場 所 : 中央労働災害防止協会 東北安全衛生サービスセンター  
出席者 : 山縣  
実施方法 : 対面

名 称 : 令和6年度デジタルものづくり実践講座  
主 催 : DMC 森精機株式会社  
日 程 : 令和7年 3月 11日(火) ~ 12日(水)  
場 所 : DMG MORI ACADEMY 仙台  
出席者 : 柴田、吉田  
実施方法 : 事前のリモート講義 および 対面での体験実習

## 5. 茨城高専おもしろ科学セミナー2024

本校にて小学生向け理科教室おもしろ科学セミナー2024 が開催された。令和6度は小学4～6年生を対象に講座が開かれ、技術教育支援センターも「作って楽しい！見て感動！立体万華鏡」というテーマで講座を開講した。本年は約16名の生徒が参加した。

## 6. 青少年のための科学の祭典ひたちなか大会2024

科学の祭典についても例年出展していたが、出展枠の関係上見送り。

## 7. 会議開催の記録

### (1) 令和6年度技術教育センター管理運営会議

令和6年度は情勢を鑑み対面会議ではなく、資料での回覧形式とした。以下に回覧した報告事項を示す。

#### ①令和4年度技術教育支援センター活動報告書

#### ②令和6年度の活動について

##### (a) 令和6年度技術職員週間スケジュール

- ・4月の運営会議にて了承済み（サイボウズに記載）

##### (b) 科学研究費申請へ応募

##### (c) 地域貢献活動

- ・おもしろ科学セミナー 8月19日（土）

#### ③令和6年度研修及び会議

##### (a) 令和6年度東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（物質系）

長岡技術科学大学 8月26日（水）

##### (b) 令和6年度関東信越地区国立工業高等専門学校技術長会議

群馬高等専門学校 8月27日（火）

#### ④技術教育支援センターニュースの配信継続

### (2) 技術教育支援センター会議

令和5年度同様コロナ情勢を鑑み、集合形式での会議は見送った。これに伴い、必要に応じてメール・回覧等による連絡を行った。

8. 技術教育支援センター 技術職員 保有資格状況

知識・技量の証明の一つの指標として積極的な取得を推進している。

令和6年4月1日現在（複数資格取得者含む）

8.	資格名
職業訓練指導員	職業訓練指導員（機械）
	職業訓練指導員（電気）
技能士	特級機械加工技能士
	特級機械保全技能士
	1級機械加工技能士(普通旋盤作業)
作業環境測定士	第1種作業環境測定士（鉱物性粉じん）
	第1種作業環境測定士（特定化学物質）
	第1種作業環境測定士（金属類）
	第1種作業環境測定士（有機溶剤）
衛生管理者	第1種衛生管理者
作業主任者	エックス線作業主任者
	特定化学物質等作業主任者
	鉛作業主任者
	有機溶剤作業主任者
	保護具着用管理責任者
特別教育インストラクター	局所排気装置等定期自主検査インストラクター
電気工事士	第2種電気工事士
電気通信設備工事担任者	アナログ第3種工事担任者
教員免許	中学校教諭免許状（理科）
	高等学校教諭免許状（理科）
	中学校教諭免許状（数学）
	高等学校教諭免許状（数学）
毒劇物取扱責任者	毒劇物取扱責任者
危険物取扱者	甲種危険物取扱者
	乙種第4類危険物取扱者
特別管理産業廃棄物管理責任者	特別管理産業廃棄物管理責任者
技能講習	ガス溶接技能講習
	玉掛け技能講習
	フォークリフト運転技能講習
特別教育	アーク溶接特別教育
	自由研削砥石特別教育

	機械研削砥石特別教育
	プレス・シャー金型交換特別教育
	特定粉じん作業特別教育
	クレーン運転業務特別教育 (5 トン未満)
情報技術者	基本情報技術者
	第 2 種情報処理技術者
	HDBaseT インストーラーエキスパート
CAD 利用技術者試験	2 次元 CAD 利用技術者試験 2 級
ビジネス・キャリア検定	2 級生産管理オペレーション (作業・工程・設備管理)
	2 級生産管理オペレーション (購買・物流・在庫管理)
	2 級生産管理プランニング (生産システム・生産計画) (加工・組立型)
	2 級生産管理プランニング (生産システム・生産計画) (プロセス型)

#### 9. 各種委員会委員一覧 (技術教育支援センター職員発令分)

- |                          |             |
|--------------------------|-------------|
| 1) 安全衛生委員会               | ・ 構成員 島田 明夫 |
| 2) 安全衛生委員会 (実習工場に係る技術職員) | ・ 構成員 柴田 慶  |
| 3) 薬品管理専門部会              | ・ 構成員 伊吹 淳子 |
| 4) 放射線障害予防専門部会           | ・ 構成員 吉田 篤史 |
| 5) 研究推進委員会               | ・ 構成員 棚井 雅信 |
| 6) 男女共同参画推進センター          | ・ 構成員 鈴木 英子 |
| 7) 技術教育支援センター管理運営会議      | ・ 構成員 島田 明夫 |
| 8) ハラスメント相談員             | ・ 構成員 伊吹 淳子 |
| 9) 男女共同参画推進センター運営委員会     | ・ 構成員 鈴木 英子 |
| 10) 情報セキュリティ推進委員会        | ・ 構成員 豊田 安紀 |
| 11) 学術情報センター             | ・ 構成員 豊田 安紀 |
| 12) 広報委員会                | ・ 構成員 吉田 篤史 |

#### 10. 技術教育支援センター今後の計画、目標

技術教育支援センターでは実習・実験のみならず、授業や卒業研究・特別研究の支援を通して技術教育をサポートしてきた。一方で、近年、製作依頼における品物形状の複雑化をはじめとして、各系・研究室からの依頼の複雑化・多様化が進んでおり、技術や知識へのより深い理解の必要性が高まっている。ここから、より円滑で柔軟な依頼対応が出来るよう技術職員のスキル向上を目指す。具体的には技術教育の要である実習・実験を通して技能・技術に関してのより深い理解とノウハウの蓄積に努めると共に、各員のスキルを活かした多様

な支援の中でその強化を図る。

また、国立高専機構中期目標・計画及び年度計画ならびに茨城高専年度計画に沿った支援が出来るよう、技術職員の資質向上に努力する。これに際して学会発表や研修会などに対する積極的な推進と科研費をはじめとした外部資金の獲得等を目指す。

加えて、年2回程度の技術教育支援センターニュースの発行やセンターのウェブサイトにおいて、リアルタイムに内外へ情報発信可能な場を設けると共に、小中学生向けイベントや公開講座といった地域貢献活動依頼に対して、柔軟に対応できるよう努める。

## 16. 予算及び施設・整備（総務委員会）

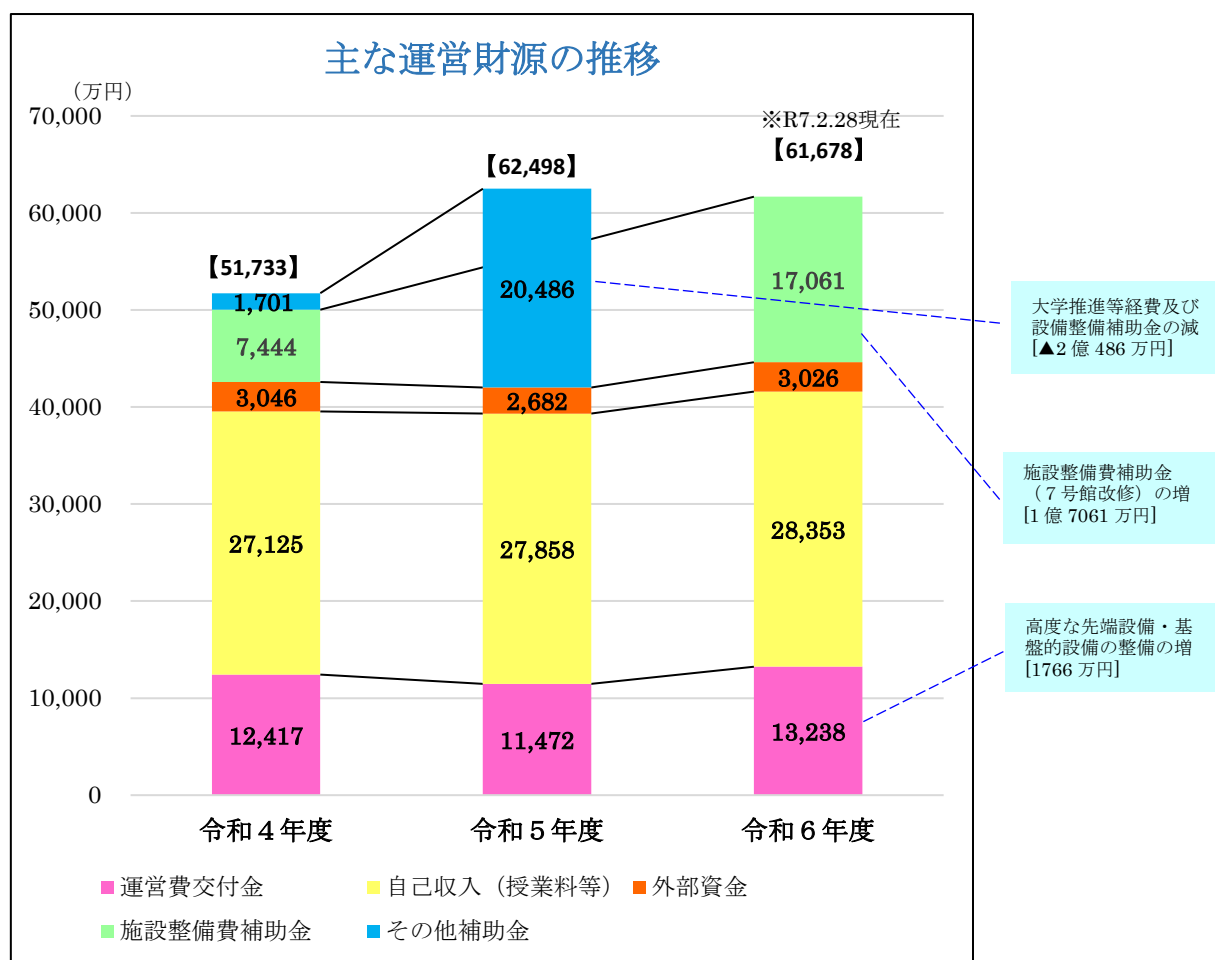
### （1）取組実績

#### ①総事業費（収入額）の概況

令和6年度の総事業費（収入額 R7. 2. 28 現在）は、前年度より 820 万円減少し 6 億 1678 万円となりました。施設整備費補助金（7号館改修）が増加しましたが、国からの資金が主である補助金収入（大学改革推進等補助金・高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業（-9960万円）及び設備整備費補助金（-1億526万円））が減少しました。

一方で、運営費交付金収入、外部資金収入及び施設整備費補助金収入が増となりました。運営費交付金収入は、高度な先端設備・基盤的設備の整備の新規事業による予算増及び日本型高専教育制度関係に伴う予算増によるものです。

また、外部資金収入については、344万円微増したものの今後の自己収入の確保に努め健全な財務運営を行ってまいります。

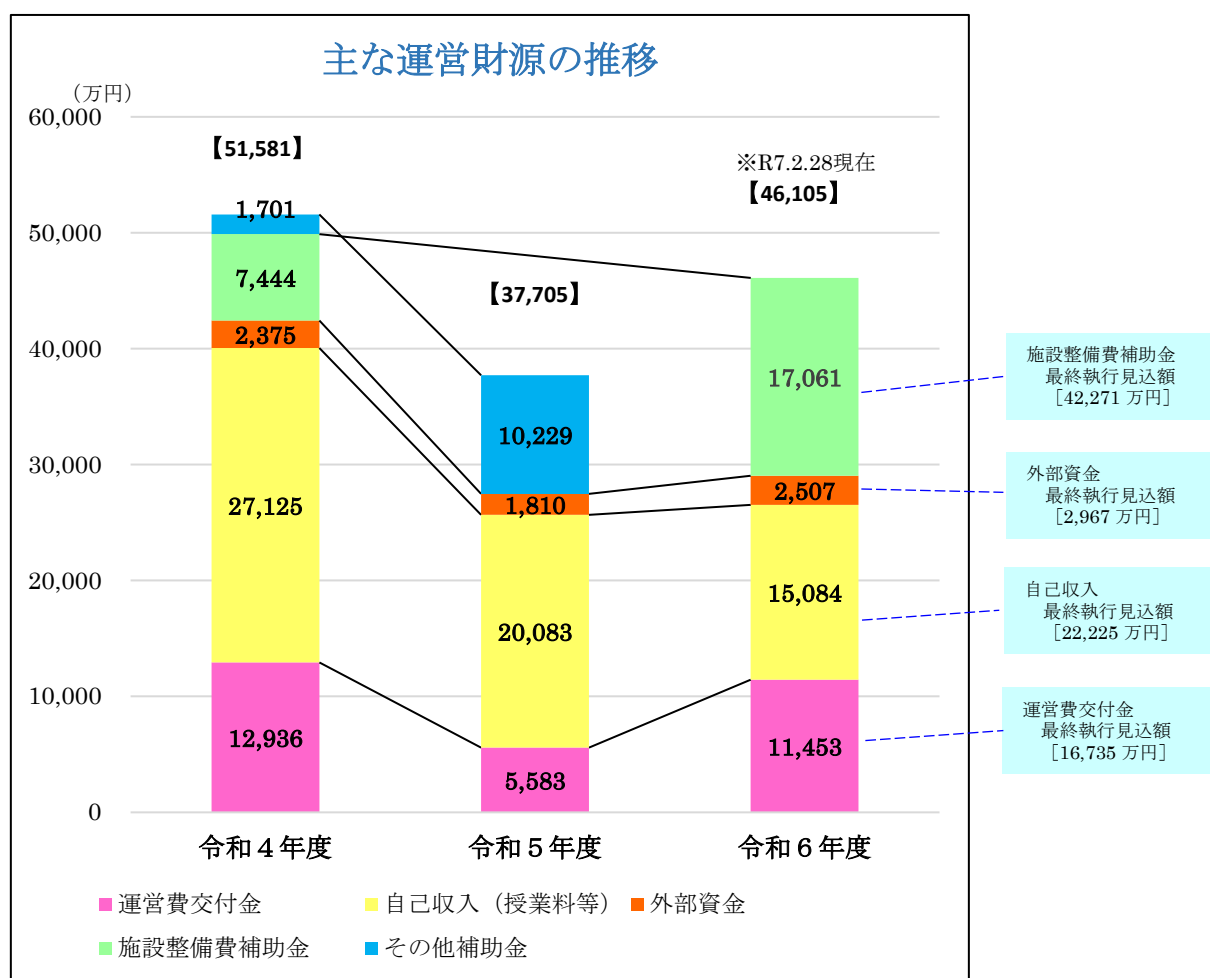


## ②総事業費（支出額）の概況

令和6年度の総事業費（支出額 R7.2.28 現在）は、前年度より8400万円増加し4億6105万円となりました。令和6年度末日までには8億4198万円を支出する予定となっております。

減少の主な要因は、その他補助金（大学改革推進等補助金・高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業及び設備整備費補助金）の支出です。

一方で、運営費交付金収入微増の主な要因として、高度な先端設備・基盤的設備の整備の新規事業による予算増及び日本型高専教育制度関係に伴う予算増によるものです。



## ③予算

運営費交付金事業の予算については、運営費交付金算定ルールによる効率化の減額のほか物価高騰及び光熱費による厳しい支出状況の中、当初配分方針及び校長裁量経費等に基づき教育の質が落ちないように学科（各部・系）等への配分基準額は現状維持に努めた。当初配分では毎年減額が続いているものの決算時の予算執行残額調整の精度を上げ、機構本

部からのインセンティブや計画的な採用抑制への取り組み等を図ることで教育改革推進経費の増額に努めたほか、高度化推進経費「学生の教育研究環境の充実」(16百万円)を獲得することが出来た。

また、11月末日で予算執行を締め切り、残予算を有効活用するために集約し各部・系等への教育研究活動経費、大型設備維持運営費(8百万円)を追加配分したほか、委員会等経費及び施設維持管理に対応した整備等(7百万円)を実施することで、予算の有効活用を推進した。

さらに、期末執行集中防止と効果的な活用を促進するため昨年度予算実績の50%を4月に配分し、校長のリーダーシップの下、戦略的かつ計画的な学校運営を行うことが出来た。

外部資金の獲得については、外部機関等との積極的な連携・協力により、教育研究支援基金や共同研究、受託事業に繋げる活動を積極的に実施した。

#### ④施設・整備

国立高専機構施設整備の中期的施設計画である「国立高専機構施設整備5か年計画2021(令和3年度～7年度)」により令和5年度補正予算にて7号館の教育機能向上を含む老朽改善を目的とした改修事業が採択され、令和6年度に完成しました。

また、国立高専機構営繕事業において第2体育館屋根改修工事(12百万円)を施工したほか、機構本部から予算配分された教育等施設基盤経費40百万円を施設維持管理などの施設関係に全額配分することで安心・安全な教育研究環境の確保及び高専教育の国際化への基盤整備に努めた。

整備計画としては、キャンパスマスタープラン2018に基づき、老朽化の著しい施設の改修の要求、学習環境整備及び緑地管理を実施したほか、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の防止に向けて衛生環境の改善を実施した。

## (2) 自己評価(改善含む)及び課題

### ①予算

毎年配分される運営費交付金(管理運営費等)の額は減少しているほか、施設維持管理費、物価高騰及び光熱水費の増加傾向が続く中、教育の質を維持するため本校では集約予算及び高度化推進経費を有効活用することで、教育研究活動に支障が生じないように予算を配分している。集約予算については、その大半が追加配分の教育改革推進経費で占めている為、機構本部で考えている教育改革推進経費の加減額が影響されている。今後は文部科学省や高専機構の新しい政策に取り組み、地域や社会の要請を敏感にとらえ、外部資金の導入促進など財源の多様化のための取り組みを推進し、必要な財源確保に最大限努力していくことが必要である。

また、経常経費の圧縮が喫緊の課題となり、光熱水費の抑制のほか、特に委員会等経費については、前年度を踏襲した予算要求が数多く見られることから、必要性・緊急性並び

に教育効果等を十分検討した上で、学校全体の為に有効活用するよう意識改革させることが今後の課題である。

## ②施設・整備

キャンパスマスタープラン 2018 に基づき、教育研究環境の改善及びキャンパス整備を上記取組実績のとおり計画的に実施した。

なお、老朽化した既存設備については、多様な財源の活用も視野に入れ計画的に整備を行う必要があり、適切な維持管理を行い、設備の長寿命化を図る必要がある。

また、高専機構施設整備5か年計画2021が策定されたのを受け、本校戦略会議（10年計画ワーキンググループの再構築）において施設整備計画の見直しを図りつつ、キャンパスマスタープランの更新を検討している。

今後は、施設整備の充実に取り組みを行い、質の高い安全な教育研究環境の確保とともに、教育の高度化、国際化並びにSDGsに対応した施設整備を進める必要がある。

## (3) 今後の展開

本校が質の高い実践的・創造的技術者育成教育を行うことができるよう、基盤的な環境の整備を図る上で、運営費交付金や学生納付金以外から多様な財源の確保に努めていき、無駄な予算執行を極力抑えていけるように教職員一体となって意識改革を行っていく必要がある。

また、自己収入増加の一助として、ネーミングライツ契約を初めて行った。今後、企業が参加する場（企業研究会等）で、幅広いPR活動を行っていく。

## 17. 安全衛生管理（安全衛生委員会）

### （1）取組実績

安全衛生委員会では、年間安全衛生推進計画を策定し、同計画に基づき実施及び実施状況の確認を行っている。

以下は、同計画の実施項目に沿った実績報告である。

#### ①安全衛生管理

##### 1) 安全衛生委員会の開催

法令に基づき、毎月1回安全衛生委員会を開催した。

##### 2) 職場巡視の実施

法令に基づき、衛生管理者及び産業医による職場巡視を実施し、4S（整理・整頓・清掃・清潔）を推進した。

指摘があった事項については、安全衛生委員会へ報告の上、是正措置を講じた。

##### 3) 4S（整理・整頓・清掃・清潔）推進に伴う赤札作戦の実施について

1月～2月にかけて赤札作戦を実施し、不要物品の洗い出し及び廃棄を実施した。

#### ②安全衛生啓発活動及び訓練

##### 1) 各種行事等の周知

全国安全週間、全国労働衛生週間、年末年始無災害運動、全国交通安全運動の各行事について学内周知を行い、教職員への啓発を実施した。

##### 2) 自衛消防訓練、初期消火訓練の実施について

10月に全学生、全教職員を対象として自衛消防訓練、初期消火訓練を実施した。

##### 3) 学寮避難訓練の実施について

4月及び10月に学生寮における避難訓練を実施した。

#### ③心と体の健康づくり

##### 1) 健康診断の実施

法令に基づき、定期健康診断、特殊健康診断、特殊歯科検診等の各種健康診断を実施し、受診可能な者（人間ドック受診により定期健康診断受診に替える者を含む。）は全員が受診した。

また、産業医が健康診断結果を確認し、必要と認める者に対しては健康指導等を実施した。

##### 2) ストレスチェックの実施

法令に基づき、ストレスチェックを実施した。

高ストレス者については、希望者を対象として産業医による面接指導を実施した。

##### 3) 感染症予防事業の実施について

感染症対策事業として、インフルエンザ予防接種を実施した。

#### ④安全衛生教育

##### 1) 「学校安全の心得」の配付

例年、グループウェア・サイボウズにより電子版を掲載し、教職員が閲覧可能な状態にしている。

##### 2) 「実験実習安全必携」の配付

Google ドライブを活用し、全学生に対し電子データによる配付を行った。

##### 3) 作業環境測定士の確保・充実

第二種作業環境測定士の資格を有する教員が本校で必要となる全ての登録講習を終了し、次年度は第一種作業環境測定士として登録予定である。

#### ⑤機械、薬品等の定期点検による安全確保

##### 1) 機械の特定自主検査等の実施

対象機械について、特定自主検査を実施した。

##### 2) エックス線発生装置の点検実施

エックス線発生装置の点検を実施し、異常がないことを確認した。

##### 3) 薬品使用状況及び廃液の点検

薬品管理システムにより薬品管理を実施するとともに、実験等による薬品廃液については、回業者へ委託し廃棄処理をした。

##### 4) 作業環境測定及び大気環境中のアスベスト濃度測定の実施

2月及び3月に、本校の作業環境測定士を中心として上記測定を実施した。

##### 5) 局所排気装置の点検

法令に基づき、局所排気装置の点検を実施した。

##### 6) 金属アーク溶接等作業に係る呼吸用保護具フィットテスト

呼吸用保護具が適切に装着されていることを確認するフィットテストフィットテストを実施し、問題ないことを確認した。

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

① 人間ドック受診により定期健康診断受診に替える者を含め、該当者全員が定期健康診断を受診できており、引き続きこの状況を維持できるようにする。

② 労働安全衛生法の一部改正に伴う対応として、令和5年度末より開始した化学物質リスクアセスメント、選任した化学物質管理者について本格的な運用を開始した。また、化学物質の小分け容器への表示の実施方法の周知を行った。今後も法改正に遺漏なく対応していきたい。

### (3) 今後の展開

作業環境測定士の有資格者を確保について一定の目途は立ったが、その他の資格も含め、引き続き有資格者の業務負担軽減及び当該有資格者が対応困難な際の相互補完が可能な体制の維持・構築を目指す。

## 18. 自己点検・評価（自己点検・評価委員会）

### （1）取組実績

自己点検・評価については、各事項を所掌する委員会等で行うこととなっており、それを総合して点検・評価する組織として自己点検・評価委員会を設置している。

当委員会では、主に教育点検・評価システムの検討及び改善、外部評価の受審、年度計画実績の評価等を行っており、今年度は次の活動を行った。

#### ①授業評価アンケートの実施

授業評価アンケートを原則全科目・全教科を対象として、7月と1月の年2回実施し、通年科目については前期と後期で2回の回答を求めた。個人の評価については、各系長等及び各個人にフィードバックした。

1月のアンケートには、7月に出した意見が後期の授業でフィードバックされていたかを確認する項目を追加した。また、全教員に、学生からの意見にどのようなフィードバックを行ったかを報告する「授業アンケート結果に関するフィードバック報告書」の提出を依頼し、取りまとめた。これにより、各教員が学生からの要望に応えるために、どのような手立てを講じているかを学内で共有することができた。

#### ②担任評価アンケートの実施

担任評価アンケートを、年度末の授業最終週に実施した。昨年度から設置している「自由記述欄」から、学生の建設的な意見を受け入れることができた。

個人の評価については、各系長等及び各個人にフィードバックした。

#### ③参加会の開催

令和6年6月5日（水）に「第33回茨城工業高等専門学校参加会」を開催し、以下の教育研究活動等の状況について、評価及び助言等の提言をいただいた。

第1部 茨城高専における高専スタートアップ教育環境整備事業の取り組みとその成果

第2部 高等専門学校機関別認証評価基準に基づく自己点検実施報告書

第3部 令和5年度年次報告書について

#### ④KIS 評価の受審

公益社団法人日本工学協会による国立高専教育国際標準（KIS）認定制度を受審した。

3日間にわたる実地調査では、8名の審査員により、教員や学生への面談、資料確認、施設見学が行われた。書類調査、実地調査の結果、令和7年3月14日に適合認定を受けることができた。

## ⑤FD研修会の開催

教員の教育改善・能力の向上を目的としてFD研修会を次のとおり開催した。

- ・ 開催日：令和6年7月31日（水）
- ・ 題目：アンガーマネジメント研修
  - ・ ハラスメントの実態
  - ・ アンガーマネジメントのテクニック
  - ・ ポジティブなコミュニケーションのポイント
  - ・ 風通しの良い職場づくりのポイント
- ・ 講師：コミュニケーションオフィス kinds  
海津 佳寿美 氏

## ⑥自己点検・評価委員会の開催

### 第1回

開催日：令和6年4月24日（水）

- 議 題：1. 令和6年度 授業評価アンケートについて  
2. KIS 評価制度の受審について  
3. 令和5年度 年次報告書について  
4. 参与会の開催について  
5. 答案の保存方法について  
6. 令和6年度 年度計画について

### 第2回

開催日：令和6年5月23日（木）

- 議 題：1. 令和6年度 授業評価アンケートについて  
2. 答案の保存方法について  
3. アンガーマネジメント研修（FD研修）の開催について

### 第3回

開催日：令和6年6月13日（木）

- 議 題：1. 令和6年度 授業評価アンケートの実施について  
2. 「学生による授業評価アンケートに関する申合せ」の一部改正について  
3. 「学習指導方法等の工夫・改善事例に関する申合せ」の廃止について

### 第4回

開催日：令和6年7月10日（水）

- 議 題：1. 在校生等へのアンケートについて

#### 第5回

開催日：令和6年8月23日（金）

議 題：1. 令和6年度表彰候補者推薦について

#### 第6回

開催日：令和6年9月19日（木）

議 題：1. 令和6年度 在校生等へのアンケート 集計結果について（報告）

#### 第7回

開催日：令和7年1月17日（金）

議 題：1. 令和6年度担任評価アンケートについて

#### 第8回

開催日：令和7年2月10日（月）

議 題：1. 新\_茨城高専点検評価体制に伴う別表1の廃止と「自己点検評価シート」  
について

2. 自己点検・評価委員会規則の改訂について

#### ⑦教育改善計画会議の開催

「教員相互による定期試験問題等のチェックに関する申合せ」に基づき、教育の改善内容について協議する教育改善計画会議を、次のとおり開催した。

開催日：令和7年3月12日（水）

議 題：1. 系長・部長又は教科主任、授業担当者による、改善計画書に記載された改善内容についての説明

2. 同一問題の定義について

3. 答案保存方法等についての変更点

#### (2) 自己評価（改善含む）及び課題

① 授業評価アンケートは、全教員へフィードバックし教育改善の一助とした。一方で、非常勤講師へのフィードバック方法について、誰がどのように行うかという業務手順の統一が出来ていなかった。

次年度は、非常勤講師と世話役教員との連携をより密にし、フィードバックを漏れなく行うことで、本アンケートを非常勤講師の授業改善の一助としたい。

② 担任評価アンケートを全担任教員へフィードバックし、教育改善の一助とした。

Web 回答形式にしたことで、学生のアンケートにかかる負担感は軽減したが、回答率が

下がった。次年度は回答数を増やすため、学生への周知方法などを検討・改善していく。

- ③ KIS 評価の受審から、本校が取り組むべき課題が明らかとなった。指摘を受けた「人財像や学習・教育到達目標の学生・教職員への周知」については、教員会議において教員への周知を、初回授業時の説明やアンケート実施によって学生への周知を徹底する。
- ④ FD研修会は、アンガーマネジメント研修を題目として開催し、教育支援を推進するための一助とした。来年度もテーマを精査の上、実施していく。

### (3) 今後の展開

令和8年度は機関別認証評価を受審する予定である。今年度は、機関別認証評価受審に向け、各種点検・評価体制の見直しを行った。令和7年度は、見直しをした点検・評価体制を実際に運用し、その結果について本校独自の自己点検・評価を行う予定である。

機関別認証評価受審をきっかけとして、より強固な自己点検・評価体制を構築する。